三重県埋蔵文化財調査報告 87－16

近畿自動車道（久居～勢和）

埋蔵文化財発掘調査報告

―― 第3分冊 10 ――

鳥居本遺跡

1991. 3

三重県教育委員会
三重県埋蔵文化財センター

例　　言

1.　本書は、平成２年度に三重県教育委員会が日本道路公団名古屋建設局から委託を受けて実施した、近畿自動車道関・伊勢線第８次区間（久居～勢和）建設予定地内にかかる埋蔵文化財発掘調査（整理・報告書作成業務）のうち、鳥居本遺跡（昭和62年度調査地区）の発掘調査報告書（第３分冊の10）である。

2.　当該調査業務にかかる費用は、日本道路公団の全額負担による。

3.　遺物整理、報文執筆にあたっては、下記の方々からご指導・助言を賜った。また広瀬和久、原正之の両氏からは玉稿も賜った。記して謝意を表する。（順不同、敬称略）

木下正史（奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第二室長）

磯部　克（三重県立津西高等学校教諭）

広瀬和久（三重県農業技術センター環境部環境研究室室長）

原　正之（三重県農業技術センター環境部環境研究室研究員）

4.　本書掲載遺跡については既に刊行している『きんき遺調査ニュースNo.16』（三重県教育委員会・1988.3）、『きんき遺調査ニュースNo.21』（三重県教育委員会・1988.12 ）、『近畿自動車道（久居～勢和間）埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ』（三重県教育委員会・1988.3）、『近畿自動車道（久居～勢和間）埋蔵文化財発掘調査概報Ⅴ』（三重県教育委員会・1989.3）等にその調査概要を公表しているが、本書をもって最終的な報告書とする。

5.　本書に収録した調査の記録類、出土遺物は三重県埋蔵文化財センターで保管している。

6.　本書に使用した遺構表示略記号は下記のとおりである。なお調査区は、本線部分と鉄塔部分（旧称中電部分）からなっており、本線部分の遺構番号は既に公表した遺構番号すなわち１～11についてはそのまま踏襲し、12以下を新たに付与した。鉄塔部分については既に公表した遺構番号に100を加えた数を遺構番号とした（例：SK1 →SK101）。また遺構実測図作成にあたっては国土調査法による第Ⅵ座標系を基準とし、図面上の方位は座標北を用いた。

ＳＢ　竪穴住居、掘立柱建物　　ＳＥ　井戸　　ＳＤ　溝

ＳＦ　焼土　　ＳＫ　土坑　　ＳＸ　方形周溝墓、方形周溝、円形周溝

7.　現地調査は宮田勝功が担当し、木許守が補助した。遺物実測は宮田勝功・河北秀実・大川勝宏・川崎正幸・孝久由希子・釆野妙子・竹内由美・上村かおり・柚純子・松本春美・瀧川ひとみ・中村美智代・前川友秀が、トレースは近藤豊美・北山美奈子・河北秀実が、遺物写真は小林秀・河北秀実が行った。執筆および編集は河北秀実が担当した。

8.　スキャニングによるデーター取り込みのため、若干のひずみが生じています。各図の縮尺率はスケールバーを参照ください。

目　　次

例言
目次
図版目次
挿図目次
表目次
Ⅰ．前言……1
Ⅱ．位置と周辺の遺跡……6
Ⅲ．層序および遺構……9
Ⅳ．遺物……31
Ⅴ．結語……31
（付編）
鳥居本遺跡発掘調査にともなう土壌分析調査（カルシウム・リン）の結果について……55

図 版 目 次

ＰＬ１　調査区全景……59
ＰＬ２　調査区南半……60
　　鉄塔地区全景……60
ＰＬ３　ＳＸ１・ＳＸ２……61
　　ＳＸ１北東周溝遺物出土状況……61
ＰＬ４　ＳＸ１南東周溝土器出土状況……62
ＰＬ５　ＳＸ２北周溝土器出土状況……63
ＰＬ６　ＳＫ13土器出土状況……64
　　ＳＫ３土器出土状況……64
ＰＬ７　ＳＫ15土器出土状況……65
　　ＳＫ34土器出土状況……65
ＰＬ８　ＳＫ35土器出土状況……66
　　ＳＫ42土器出土状況……66
ＰＬ９　ＳＢ６……67
　　ＳＢ78……67
ＰＬ10　ＳＢ79……68
　　ＳＢ９・ＳＫ29……68
ＰＬ11　ＳＢ83……69
　　ＳＢ86……69
ＰＬ12　ＳＢ89・88……70
　　ＳＢ90……70
ＰＬ13　ＳＢ91……71
　　ＳＢ92・４……71
ＰＬ14　ＳＢ106……72
　　ＳＥ７……72
ＰＬ15　ＳＥ10……73
　　ＳＥ105 遺物出土状況……73
ＰＬ16　ＳＸ５……74
　　ＳＸ８……74
ＰＬ17　出土遺物……75
ＰＬ18　出土遺物……76
ＰＬ19　出土遺物……77
ＰＬ20　出土遺物……78
ＰＬ21　出土遺物……79
ＰＬ22　出土遺物……80
ＰＬ23　出土遺物……81
ＰＬ24　出土遺物……82

挿図目次

第1図　遺跡位置図…… 3
第2図　遺跡分布図…… 6
第3図　遺跡地形図…… 7
第4図　発掘区位置図…… 8
第5図　発掘区地区割図…… 8
第6図　発掘区土層断面図…… 10
第7図　遺構平面図…… 11～12
第8図　SB4,SK48・51,SX1,SK14～18実測図…… 16
第9図　SX1北東周溝・南東周溝土器出土状況図…… 17
第10図　SX2,SK12・23・37・39・59・62・75実測図…… 18
第11図　SX2北周溝遺物出土状況図…… 19
第12図　SK13遺物出土状況図…… 20
第13図　SK3・15遺物出土状況図…… 21
第14図　SK34・35遺物出土状況図…… 22
第15図　SK42・66遺物出土状況図…… 23
第16図　SK68・104遺物出土状況図…… 24
第17図　SB6・77～79・91・80・9,SK29実測図…… 26
第18図　SB81～87・90実測図…… 27
第19図　SB88・89・92～94・106実測図…… 28
第20図　SE7・10・11・105実測図…… 29
第21図　SX5・8実測図…… 30
第22図　出土遺物実測図…… 43
第23図　出土遺物実測図…… 44
第24図　出土遺物実測図…… 45
第25図　出土遺物実測図…… 46
第26図　出土遺物実測図…… 47
第27図　出土遺物実測図…… 48
第28図　出土遺物実測図…… 49
第29図　出土遺物実測図…… 50
第30図　出土遺物実測図…… 51
第31図　出土遺物実測図…… 52
第32図　出土遺物実測図…… 53
第33図　出土遺物実測図…… 54
第34図　土壌分析結果(1)…… 57
第35図　土壌分析結果(2)…… 58

表目次

第1表　遺構実測図・遺物実測図整理番号一覧表…… 1
第2－1表　発掘遺跡一覧表…… 4
第2－2表　発掘遺跡一覧表…… 5
第3表　竪穴住居一覧表…… 14
第4－1表　土坑一覧表…… 14
第4－2表　土坑一覧表…… 15
第5表　掘立柱建物一覧表…… 25
第6表　溝一覧表…… 25
第7－1表　出土遺物観察表…… 34
第7－2表　出土遺物観察表…… 35
第7－3表　出土遺物観察表…… 36
第7－4表　出土遺物観察表…… 37
第7－5表　出土遺物観察表…… 38
第7－6表　出土遺物観察表…… 39
第7－7表　出土遺物観察表…… 40
第7－8表　出土遺物観察表…… 41
第7－9表　出土遺物観察表…… 42
第8表　土壌分析結果一覧表…… 56

I. 前　　言

1．調査に至る経過

鳥居本遺跡は行政区画上は一志郡一志町大字小山字鳥居ノ本および大字片野字八反田に所在する。昭和48年に宅地造成計画での取り付け道路建設に伴う分布調査によって発見された遺跡で、同年度に約800㎡を対象に発掘調査が行われている。昭和48年度の発掘調査では、弥生時代前期の土坑2基、中期の方形周溝墓1基、土坑5基、溝3条、後期の土坑2基、溝2条、飛鳥時代の竪穴住居7棟、土坑4基、溝1条、室町時代の溝3条を検出し、遺物も上記の各時代のものが出土している[3]。

今回の発掘調査は近畿自動車道関・伊勢線第8次区間（久居～勢和）建設に伴うものである。三重県教育委員会文化課は昭和50年と同53年に近畿自動車道建設予定地内における埋蔵文化財の分布調査を実施した結果、一志町片野地内に所在する八反田遺跡の範囲が道路建設予定地内にまで拡大することが確認された。その後、八反田遺跡と鳥居本遺跡は遺物の散布が連続的に繋がっていることが判明した。

なお『一志町史』[4]でも、八反田遺跡と鳥居本遺跡をまとめて鳥居本遺跡としているが、現状の地形により東から順にA・B・Cの3遺跡に分けている。鳥居本A遺跡はJR名松線以東の畑地で、八反田遺跡にあたる地区である。弥生時代と飛鳥～奈良時代の二時期の遺物が採集されている。近畿自動車道建設に伴う今回の調査区はこのA遺跡のほぼ中央である。鳥居本B遺跡はJR名松線の西側の東西約250m、南北約200m程の範囲である。昭和48年度の発掘調査区はここに含まれる。鳥居本C遺跡はB遺跡の南西側の桑畑で、段丘の西端にあたり、小山集落に北接する。土師器、須恵器、山茶椀が採集されている。

本書では八反田遺跡と鳥居本遺跡を、すなわち上記のA～C遺跡を総称して鳥居本遺跡として扱うこととする。

2．調査および整理の方法

近畿自動車道第8次区間における発掘調査遺跡の内訳は第2表のとおりである。現地調査および資料整理の基本的な方法については『近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告第3分冊』[1]に示したので参照されたい。

鳥居本遺跡では、地区杭は原則に従い、南北方向に数字を東西方向にアルファベッドを4m毎に付与した。また現場における遺構名は各グリッド毎に1から順に付与した。整理段階における遺構実測図と遺物実測図およびピックアップ遺物の番号は第1表のとおりである。

3、調査および整理の体制

（1）調査の体制

現場の発掘調査は、三重県教育委員会が主体となり、同事務局文化課が担当した。以下は、昭和62年度の調査体制である。

文化財第二係長　伊藤久嗣
　技師　新田　洋
　主事　山下雅春・田中喜久雄・増田安生
　　田村陽一・河北秀実・宮田勝功
　　野田修久
　臨時調査員　木許　守
　室内整理員　谷久保美知代・近藤豊芙
　　山本紀子・大西友子・野崎栄子
　　中谷とも代・東　千恵子
　　山際みち子・孝久由希子

調査指導（順不同，敬称略）
　八賀　晋（三重大学教授）
　坪田　直（帝塚山大学教授）
　水野正好（奈良大学教授）

遺跡番号	遺　跡　名	遺構実測図	遺物実測図
3	鳥居本遺跡（昭和62年度）	3－0001～0080	3－0001～0214 3－0801～0900
	鳥居本遺跡（昭和63年度）	3－2001～2049	3－5001～5025

第1表　遺構実測図・遺物実測図整理番号一覧表

木下正史（奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第二室長）
安孫子昭二（東京都文化課　学芸員）
広瀬和久（三重県農業技術センター環境部環境研究室室長）
原　正之（三重県農業技術センター環境部環境研究室研究員）
磯部　克（三重県立津西高校教諭）
発掘調査土木工事部門担当
三重県上地開発公社
堀内信吾・稲葉庄衛・浜口安光・仲田辰実

（2）整理の体制

整理および報告書作成作業は、三重県埋蔵文化財センターが担当した。以下は、平成2年度の整理および報告書作成作業の体制である。

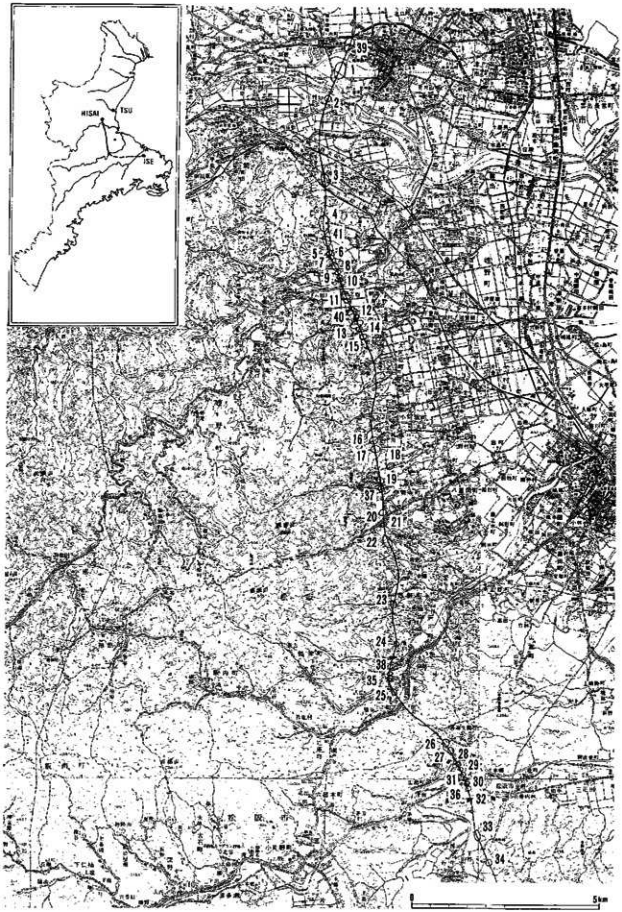
次長兼調査第2課長　山澤義貴
調査第2課主査　新田　洋
調査第2課第1係
主事　河北秀実・増田安生
齋藤直樹・伊藤裕偉
角谷泰弘（伊勢市教育委員会から派遣）
稲本賢治（多気町教育委員会から派遣）
前川嘉宏（玉城町教育委員会から派遣）
技師　大川勝宏
管理指導課
主事　小坂宜広・江尻　健
臨時調査員　川崎正幸
室内作業員　反町登子・茅野妙子・谷久保美知代
吉村道子・山分孝子・白石みよ子
乾ひとみ・竹内由美・上村かおり
森田幸伸（皇學館大学学生）
近藤大典（皇學館大学学生）

4．調査経過

昭和62年5月から遺跡範囲確認のために第1次調査として道路建設予定地内で試掘調査を実施した。その結果南北約200mの範囲において遺構、遺物を確認したため、本調査を行うこととした。本調査区は農道によって南北に分断されているが、昭和62年度は農道以北の調査を実施した。また近畿自動車道の建設に伴って移設される送電用鉄塔の移設用地についても合わせて調査を行った。調査期間は同年9月24日から翌昭和63年3月7日まで、面積は合わせて6,400㎡である。

なお農道以南の本調査は昭和63年度に行ったが、その内容については『近畿自動車道　（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告　第3分冊5』[3]で報告している。

また平成元年度、一志町教育委員会によって、工場造成に伴って、隣接地で発掘調査が行われており、奈良・平安時代の遺構、遺物が確認されている。[4]



第１図　遺跡位置図（１：100,000）

番号	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)		調査期間(元号は昭和)	担当者	概要
1	小戸木遺跡	久居市小戸木町	192	計 432	62.3.3～3.5	宮田 勝彦	遺構・遺物なし（試掘）
			240		62.9.20～9.24	木許 守	〃 （試掘）
2	庄村遺跡	志摩市庄村		304	62.9.14～9.20	新田 洋	遺構なし・遺物散布（試掘）
3	鳥越本(八反田)遺跡	一志町小山、新沢田	8,900	11,540	62.9.24～63.3.7	宮田 勝彦	弥生中期方形周溝墓など検出
			2,640		63.5.16～7.27	小笹 宮広 河北 秀実	飛鳥時代の井戸検出
4	西野7号墳（天花寺古墳群）	嬉野町天花寺		3,400	62.11.9～11.31	新田 洋	（山林伐開）
					63.5.16～9.28	新田 洋 山崎 恒敬	石剣・車輪石片出土、前期の古墳1基
5	桃野(口山田)古墳	嬉野町島田		2,010	62.7.11～9.30	山下 憲春	古墳は畑耕作による盛土と判明 石棺片出土（試掘）
6	桃野(口山田)遺跡	嬉野町島田		3,500	62.5.21～8.24	宮田 勝彦 新田 洋	奈良時代の住居跡など検出
7	大保(天保B)遺跡A・B区	嬉野町島田		7,200	62.5.7～9.4	田村 陽一	平安時代の竪穴住居など検出
8	天保(一志西部)遺跡 C区	嬉野町島田		5,000	62.5.18～6.30	増田 安生	奈良～平安時代の竪穴住居など検出
9	天保(大保館跡)遺跡 D区	嬉野町島田		3,800	62.7.1～8.12	増田 安生	〃
10	大保古墳群（含、天保遺跡E区）	嬉野町島田		5,390	62.8.5～63.7.12	田村 陽一 野田 修久	6世紀中ごろの横穴式石室墳など
11	城之内遺跡 A区	嬉野町城之内	1,450	14,250	62.2.23～3.13	新田 洋	（側溝部分の調査）
	A区	〃	2,200		62.5.6～7.16	河北 秀実	古墳～平安時代の住居跡など検出
	B区	〃	2,200		62.7.23～10.1	河北 秀実	古墳～平安時代の溝など検出
	C区	薬王寺	5,400		62.9.1～63.3.19	増田 安生	弥生後期竪穴、平安の掘立など検出
	D区	〃	700		62.10.25～11.20	木許 守	古式土師器出土、ヤテ状遺構検出
	C区下層	〃	1,900		63.5.18～8.13	田村 陽一	縄文中・後・晩期の土器多数出土
			400		62.5.20、6.29～7.22	河北 秀実	（調査区南端・北端部の試掘）
12	中尾遺跡	嬉野町薬王寺	93	600	62.3.4	河北 秀実	（試掘）
			507		62.5.6～6.5	河北 秀実	掘立柱建物3棟検出
13	庄境遺跡（ビハノ谷古墳群）	嬉野町薬王寺、下之正	1,000	13,000	62.3.2～3.30	野原 宏司	（山林伐開、表土掘削）
			12,000		62.5.19～8.12	野田 修久 木許 守	弥生式土器出土
14	女牛谷古墳群	松阪市小野町 嬉野町薬王寺、下之正	4,030	7,171	61.12.15～62.2.21	野原 宏司	（山林伐開、第1次調査）
			3,140		62.5.7～7.11	木許 守 野田 修久 山下 雅俊	後期の古墳群
15	平田遺跡	松阪市小野町		228	61.2.18～2.24	田村 陽一	遺構なし、遺物散布（試掘）
16	山見(下山見)遺跡	松阪市小阿坂町		224	60.11.12～11.20	野原 宏司	遺構なし、遺物散布（試掘）
17	新田遺跡	松阪市小阿坂町	288	4,688	60.11.15～11.25	野原 宏司	（試掘）
			4,400		60.12.27～61.3.25	野原 宏司	縄文後期土器出土
18	垣内田古墳群（垣内田遺跡）	松阪市岩内町	428	6,528	60.11.26～12.12	野原 宏司	（試掘）
			5,500		60.12.27～61.3.25	吉永 康夫	横穴式石室墳を主体とする古墳群
			600		61.6.30～7.30	野田 修久	
19	飯ノ下(廻崎古墳群)遺跡	松阪市岩内町	1,100	2,500	61.3.1～3.25	田村 陽一	（試掘）
			1,400		61.6.30～10.3	田村 陽一	良好な資料となる縄文後期土器多数出土

第2－1　発掘調査遺跡一覧表（太ゴチックは本書所収遺跡）
※調査総面積は151,715㎡、ただし本調査面積に試掘調査面積が重複する遺跡あり。

番号	遺跡名	所在地	調査面積(㎡)		調査期間(元号は昭和)	担当者	概要
20	榎見遺跡	松阪市伊勢寺町	306	計 2,708	60.10.18～10.24	匹村 潤一	(試掘)
			2,404		60.11.26～61.3.18	河北 秀実	奈良～平安時代の竪穴住居検出
21	平林古墳群	松阪市伊勢寺町		4,021	61.6.9～10.3	新田 洋 河北 秀実	石室を主体とする古墳群
22	横尾(西野)墳墓群	松阪市伊勢寺町、岡山町	5,500	8,000	60.7.1～61.2.27	日野 仁 富田 勝彦	500基におよぶ中世墓群
			2,500		61.5.31～12.5	日中喜久雄 宮田 勝彦	後期小型円墳(横穴式石室)2基 後期小型方墳2基
23	さんざい林遺跡	松阪市西野町		176	60.10.25～10.26	田村 陽一	(試掘)
24	大河内5号(板窪)古墳	松阪市笠川町		180	61.7.23～8.19	野田 修久	中世二部片敷並。古墳にあらず(試掘)
25	大河内城跡	松阪市大河内町		600	62.1.5～2.25	宮田 勝彦	中世北畠氏の平山城大河内城の堀切
26	上ノ広(森下池西方)遺跡	松阪市広陵町	224	1,360	60.3.22～60.3.31	上村 安生 川崎 仁 河内 勝彦	(試掘)
			1,136		60.7.1～60.10.14	田村 陽一 野原 宏司	先土器末～縄文時代の石器多数出土
27	大原屋(大原屋庵方)遺跡	松阪市広陵町		144	60.10.28～60.10.31	田村 陽一	遺構、遺物散在(試掘)
28	花ノ木(山崎)遺跡	多気町牧	52	5,852	59.12.10	田村 陽一 杉谷 政樹	(試掘)
			5,800		60.1.28～60.3.26	田村 陽一 杉谷 政樹	弥生時代中期竪穴住居、方形周溝墓など検出
29	浅岡山北遺跡	多気町牧	44	1,044	59.12.10	高見 立雄 匹村 潤一	(試掘)
			1,000		60.1.28～60.2.23	田阪 仁	土師器細片、天目茶椀片出土
30	浅岡山南遺跡	多気町牧		470	60.3.25～60.3.31	河崎 哲夫 田村 陽一	遺構なし。遺物散在(弥生前期土器片)(試掘)
31	牧瓦窯群 1・2・3号窯	多気町牧	960	1,160	60.7.1～60.10.31	日中喜久雄 河北 秀実	奈良時代の瓦窯跡窩
	4・5・6・8号窯	多気町牧・銀形			60.11.30～61.3.25	日中喜久雄	1号……平窯
	7号窯	多気町銀形	200		61.6.9～61.8.15	野原 宏司	2～8号…登窯
32	釈尊寺(中牧)遺跡	多気町銀形	144	1,144	60.11.1～60.11.12	田村 陽一	(試掘)
			1,000		60.12.5～61.2.28	田村 陽一	掘立柱建物検出、中世土器出土
33	下村A遺跡	勢和村丹生	88	7,588	59.12.6～12.8	増田 安生 杉谷 政樹	(試掘)
			7,500		60.1.28～3.28	大本 純子 内藤 政樹 上村 安生	石臼・石匙・山茶椀・瓦器片等出土
34	下村B遺跡	勢和村丹生		44	59.12.8～12.9	増田 安生 杉谷 政樹	遺構・遺物なし(試掘)
35	岩谷遺跡	松阪市矢津町	740	5,440	61.2.27～3.25	田阪 仁	(試掘)
			4,700		61.8.20～62.3.18	野原 宏司 野田 修久	五輪塔など出土。寺(長徳寺)跡の伝承に異つけた。
36	鼠形(牧)中世墓群	多気町鼠形		520	61.7.1～9.6	野原 宏司	石組の中世墓15基検出
37	大神山古墳群	松阪市伊勢寺町、岩内町		1,750	61.9.20～11.4	新田 洋	横穴式石室墳主体の古墳群
38	榊原外遺跡	松阪市矢津町		1,676	61.9.1～10.18	野原 宏司 野田 修久	鎌倉時代の掘立柱建物など検出
39	戸木(久保屋敷)遺跡	久居市戸木町		12,000	62.9.1～63.3.31	山下 博喜 岡内真次郎	中世後半掘立柱建物、井戸、土壙状遺構など検出
40	ビハノ谷遺跡	總野町薬王寺		1,600	63.4.11～5.11	小坂 宣治	古墳時代竪穴住居。鎌倉時代掘立柱建物検出
41	西野遺跡 北浜遺跡	納野町天花寺 總野町天花寺		2,473	63.7.12～8.3	野田 修久	古式土師器片出土(試掘) サヌカイト製尖頭器片出土(試掘)

※調査総面積は151,715㎡、ただし本調査面積に試掘面積が重複する遺跡あり。

第2－2表　発掘調査遺跡一覧表

Ⅱ．位置と周辺の遺跡

高見山地の三峰山に源を発する雲出川は、その支流波瀬川や中村川を合流しながら、伊勢平野を東流し伊勢湾に注ぐ。鳥居本遺跡(1)は雲出川中流右岸の中位段丘上に位置する。行政区画上は一志郡一志町大字小山字鳥居ノ本および大字片野字八反田に所在し、遺跡範囲は小山集落と姫路集落の間の水田および畑地一帯で、東西約700m、南北約400mの拡がりをもち、その標高は13～20mである。

以下、当遺跡の周辺すなわち雲出川中流域およびその支流中村川流域の遺跡を時代順に概観しておきたい。

1．先土器～縄文時代

先土器～縄文時代の遺跡としてはナイフ形石器や石鏃等の石器が多数採集されている下名倉遺跡(2)や、先土器～縄文草創期の石器が採集されている田尻上野遺跡(3)を挙げることができる。

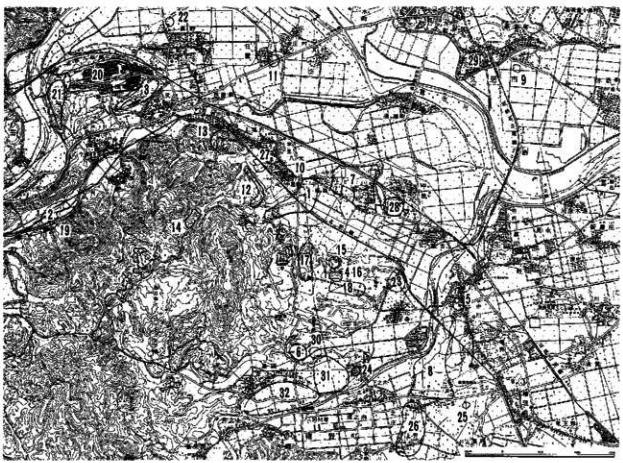
発掘調査が行われた縄文時代の遺跡には、早期の落とし穴遺構が検出された馬ノ瀬遺跡(4)、中期の土器が多数出土している針箱遺跡(5)、晩期の竪穴住居2棟と4基の合口甕棺墓が検出された鉈亀橋遺跡(6)等がある。

3．弥生時代

弥生時代になると当地域では鳥居本遺跡・片野遺跡・下之庄東方遺跡の拠点的集落が形成される。時期は三遺跡とも中期が中心である。

鳥居本遺跡の東に近接する片野遺跡(7)では、中期中葉の竪穴住居6棟と、中期前葉の方形周溝墓1基、土坑墓の可能性をもつ多数の土坑、溝等が検出されている。遺物は中期中葉のものが多く出土している。

中村川右岸の下之庄東方遺跡(8)では前期から後期までの遺構がみられるが、とりわけ中期前葉から



第2図　遺跡分布図（1：50,000）

後期後葉にかけての方形周溝墓が36基、土坑墓の可能性をもつ土坑が確認されており、弥生時代の墓域であったと考えられる。住居址は検出されていないが、住居域は近くに存在するものと思われる。遺物も各時期のものが多量に出土している。

雲出川左岸に位置する長持元屋敷遺跡(9)では方形周溝状遺構1基、竪穴住居2棟が検出されている。方形周溝状遺構は前期、竪穴住居の1棟は弥生時代終末欠山期とされている。

また鳥居本遺跡の北西に近接する唐木垣内遺跡(10)では弥生時代と思われる土器が、さらに北1.5kmの貝納遺跡(11)でも弥生土器片がそれぞれ採集されている。

4．古墳時代

古墳時代になると、鳥居本遺跡の西方から南方にかけての丘陵地帯には中野山古墳群(12)、西出山古墳群(13)、ヒジリ谷古墳群(14)、片野池古墳群(15)、馬ノ瀬古墳群(16)、西野古墳群(17)、清水谷古墳群(18)等多くの古墳が築造されていく。さらにその北側の出雲川と波瀬川に挟まれた一帯にも下名倉古墳群(19)、上野山古墳群(20)、上野山狐塚古墳群(21)等がみられる。この丘陵一帯が総計300基を越える大古墳群となっている。

集落跡には、25棟の竪穴住居等が検出された片野遺跡、84棟の竪穴住居が検出された下之庄東方遺跡等がある。

5．飛鳥・奈良・平安時代

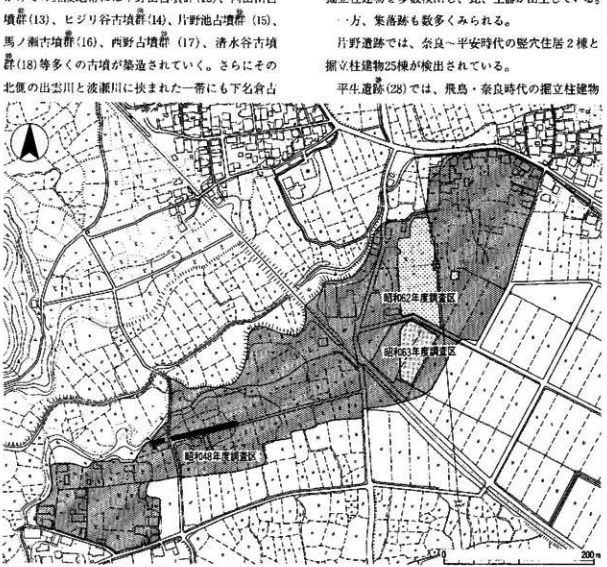
飛鳥から奈良時代にかけては、当地域では、高寺廃寺(22)、天花寺廃寺(23)、一志廃寺(24)、嬉野廃寺(25)、上野廃寺(26)、八太廃寺（斑光寺跡）(27)等多くの古代寺院が建立されていく。

天花寺廃寺の発掘調査では塔跡と金堂跡が確認され、遺物は7世紀後葉・8世紀前葉の土器・瓦等が出土している。

奈良時代前期の創建とされている斑光寺は大形の掘立柱建物を多数検出し、瓦、土器が出土している。一方、集落跡も数多くみられる。

片野遺跡では、奈良～平安時代の竪穴住居2棟と掘立柱建物25棟が検出されている。

平牛遺跡(28)では、飛鳥・奈良時代の掘立柱建物



第3図　遺跡地形図（1：5,000）

3棟、井戸1基、土坑16基等、平安時代後期の掘立柱建物8棟、柵列3条、土坑2基等、平安時代末期の井戸2基、土坑8基等を検出している。出土遺物には飛鳥～奈良時代の内面に暗文をもつ土師器が多量に出土しており、律令体制下における畿内との強いつながりを示唆している。

雲出川左岸では、奈良時代の竪穴住居13棟を検出した長持元屋敷遺跡、奈良時代の掘立柱建物4棟を検出した牧遺跡(29)を挙げることができる。

中村川右岸の下之庄東方遺跡では奈良・平安時代の掘立柱建物23棟以上と柵列、井戸等が検出されている。

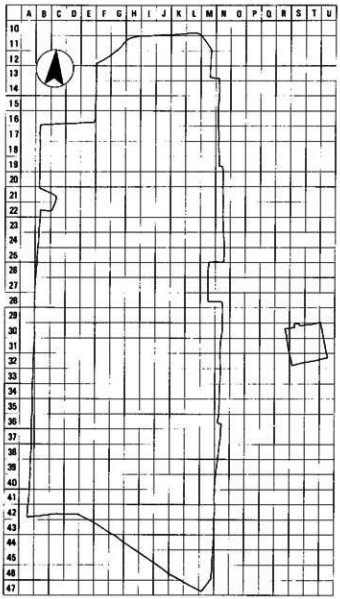
中村川左岸の台地上には飛鳥～奈良時代の竪穴住居、掘立柱建物が検出された焼野遺跡(30)、飛鳥～平安時代にかけての竪穴住居、掘立柱建物が検出された天保遺跡(31)、奈良時代後半から平安時代の竪穴住居、平安時代後半の掘立柱建物検出されている上野垣内遺跡(32)がみられる。

6．鎌倉・室町時代

この時代で発掘調査された遺跡には、鎌倉から室町時代の掘立柱建物8棟・井戸等が検出されている片野遺跡、室町時代の屋敷地と7基の墓坑と考えられる土坑を検出している長持元屋敷遺跡がある。

他に鎌倉時代の遺構・遺物が確認されている遺跡には下之庄東方遺跡、平生遺跡等がみられる。

第4図　発掘区位置図（1：2,000）



第5図　発掘区地区割図（1：1,000）

Ⅲ．層序および遺構

1．層序

調査区の基本的層序は、第Ⅰ層：暗褐色土7.5YR3／4（表土）または暗赤褐色土5YR3／2、第Ⅱ層：極暗褐色土7.5YR2／3または黒褐色土7.5YR3／1、第Ⅲ層：黒色土（黒ボク・遺物包含層）10YR2／1、第Ⅳ層：黄褐色土10YR5／4 または暗褐色土5YR3／1（地山）である。

2．遺構

遺構検出面の標高は13.7～15.4mである。最も高い所は西側中央部から南西部にかけてである。ここから東側中央部に向かって尾根状に張り出しがみられ、東側中央部での標高は14.9mである。この尾根状の張り出しから北側と南側に向かっては緩やかに傾斜しており、北側での標高は13.7m、南側での標高は14.4mである。

検出した遺構は弥生時代、飛鳥～平安時代、鎌倉～江戸時代の三時期に大別できる。遺構埋土は黒色土のものと、黒色土と黄褐色土の混合土のものがみられる。埋土が黒色土の遺構の切り合いについては肉眼観察では困難を極めた。

（1）弥生時代の遺構

A．竪穴住居

ＳＢ４の１棟検出したのみである。規模等については第３表のとおりである。出土遺物は石鏃（１）の他、少量の弥生土器がみられた。

B．方形周溝墓

調査区の北東部で２基検出された。

ＳＸ１　周溝の平面形は四隅がすべて切れるもので、外辺は13.3m×9.8mである。盛土、および主体部は検出されなかった。周溝は北西周溝が長さ6.8m、幅1.2m、深さ0.4m、北東周溝が長さ5.9m、幅1.7m、深さ0.4m、南東周溝が長さ9.2m、幅1.0m、深さ0.6m、南西周溝が長さ5.4m、幅1.2m、深さ0.2mである。各溝の断面の形は船底形をしている。

南東周溝の南端近くから大型の甕（16）が、中央部から受口口縁壺（14）と口縁部を欠いた壺（15）が出土した。北東周溝からは北端から大型の細頸壺（５）が、中央付近から中型の細頸壺（２）が出土した。

ただし、大型の細頸壺（５）が、出土している北東周溝北端は方形周溝墓ではなく、全く別の遺構である可能性もある。

ＳＸ２　東半が調査区外に延びるため、西半のみの調査となったが、西半部も後世のＳＤ95・96・98等の溝に切られており、残存はあまりよくない。平面形は北西隅に陸橋部をもつもので、南北の外辺は約14mである。盛土、および主体部は検出されなかった。周溝の幅は1.0 ～2.7m、深さは0.5mである。

北周溝からはほぼ完形の壺（27）と広口壺（30）が、また(25・26）は、破損状態で出土した。

C．土坑

弥生時代の土坑は52基検出した。規模等については第４表のとおりである。

弥生時代の土坑は、調査区北部の方形周溝周辺と調査区南西部にみられるが、特に南西部に集中している。土坑の平面形態は、①長さ２～５ｍ程の細長い形状をするもの、②楕円形を呈するもの、③長方形を呈するもの、④円形を呈するもの、⑤不定形なもの、の５種類に分けた。これらの土坑には、埋土中に焼土塊と炭化物を伴う層が認められるものが何基かみられた。

なお土坑ＳＫ13は、その両端が後世の攪乱により破壊されているが、その形状と遺物の出土状況がＳＸ１・２に似ていることから方形周溝墓の可能性がある。

（2）飛鳥～平安時代の遺構

A．竪穴住居

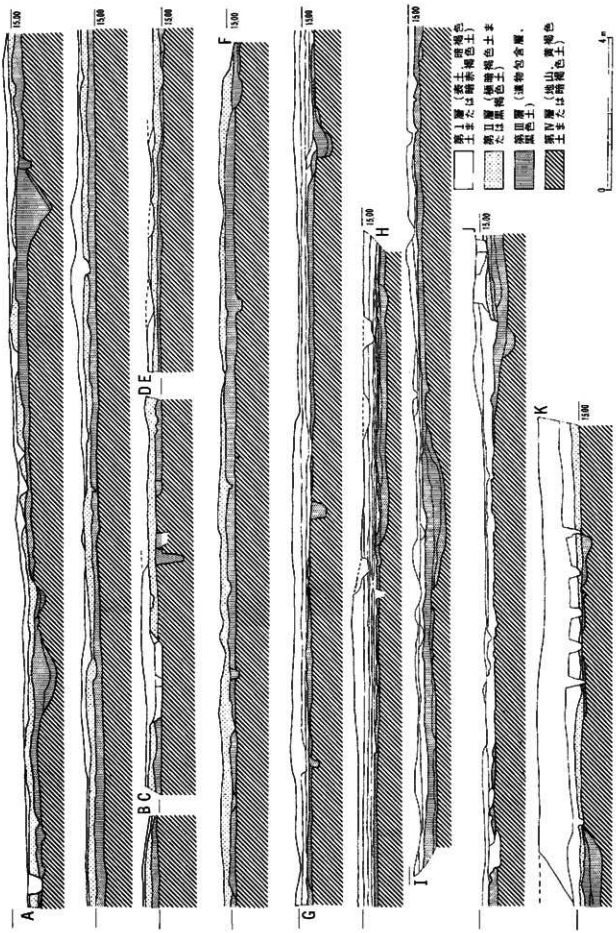
ＳＢ６・77～79の４棟である。ＳＢ６は飛鳥時代、他の３棟の詳細な時期は特定できない。規模等については第３表のとおりである。

ＳＢ６は東壁中央にカマドを敷設しており、カマド焼土内より支柱石と散在した状態で土師器甕片が出土した。遺構埋土からは土師器坏・皿が出土している。

B．掘立柱建物

掘立柱建物は17棟検出したが、各建物の規模等は第５表のとおりである。

ＳＢ９は、東西６間、南北３間以上の総柱建物で



第６図　発掘区土層断面図（１：100）

第7図　遺構平面図（1：200）

あるが，南東隅に土坑ＳＫ29を伴う。柱痕跡は10箇所の柱穴で確認したが，その直径は10～20cmである。

出土遺物によりおおよその時期を比定できるのは４棟だけで，ＳＢ83・90が奈良時代、ＳＢ９・87・88が平安時代である。他の13棟は出土遺物が全く無いか、古墳時代以降の土師器・須恵器等の小片で、出土遺物により時期を比定することは困難である。しかし遺物包含層出土遺物は、奈良時代のものと平安時代のものが多いことから、掘立柱建物はこの時期と考えるのが妥当であろう。

Ｃ．井戸

井戸は４基検出している。

ＳＥ７　平面形は長径1.5m、短径1.0mの楕円形で、深さ1.1mである。埋土からは奈良または平安時代の土器の小片が出土している。

ＳＥ10　径2.5m程の円形で，深さ2.4mである。深さ2.0mから下は一辺0.8m程の隅丸方形になっており、井戸枠の掘形と思われる。埋土からは平安時代の土器の小片と井戸枠の残片と思われる木片が数点出土している。

ＳＥ11　径2.5mの円形で、深さは2.4mである。深さ2.2mから下は径0.6m程の円形になっており、井戸枠の掘形と思われる。埋土からは平安時代の土器のが出土している。

ＳＥ105 平面形は一辺約1.5mの方形で、底は一辺約0.4mの方形、深さは2.2mである。井戸枠の板材と思われる木片が３点出土している。土師器坏(173)のほか、底面直上から土師器甕(174) が出土した。

Ｄ．周溝遺構

ＳＸ５　調査区中央、やや東よりに位置する方形周溝で、外径は10×９mで、溝の幅は 1.1～2.3m、深さ0.5mであるが、南東周溝の中央と北東周溝の北寄りでは約1.5mの間、溝幅が0.5mと狭くなっている。周溝の底は凹凸がある。周溝の土層断面には台状部から周溝底面に向かって流れ落ちた痕がみられ、本来は盛土があったものと考えられる。出土遺物は、奈良時代の須恵器蓋(150) と平安時代の灰釉陶器(151) 等であるが、(151) は遺構の埋没期を示すもと考えたい。

ＳＸ８　調査区西端の南寄りに位置する円形遺構である。外径約10mで、南に陸橋部をもっており、東は後世のＳＤ99に切られ、西は調査区外である。盛土は検出されなかった。周溝の幅は0.8～1.8m、深さは最深部で0.5mである。出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器等の小片で、遺構の時期を決定することのできる遺物は奈良時代と思われる須恵器片だけである。

Ｅ．焼土

ＳＦ69　0.8×0.3mの範囲で、厚さ0.2m程の焼土を検出した。出土遺物は土師器ミニチュア土器(175)・椀 (176)・皿(177・178)・甕 (179)である。

Ｆ．土坑

当該時期の土坑はＳＫ20・21・25・28・29・31・32・40・41の９基を検出した。各々の土坑の規模等については第４表のとおりである。

（３）鎌倉～江戸時代の遺構

Ａ．溝

主な溝はＳＤ95～100の６条を検出した。各々の溝の詳細については、第６表の通りであるが、ＳＤ95～97・99・100は直線状、ＳＤ98は「コ」の字状を呈しており、これらの溝の方向は、N11～14° W、またはそれにほぼ直交するN76～84° Eである。

ＳＤ99が、南隣りの昭和63年度調査のＳＤ２またはＳＤ３につながる可能性は、既に指摘されているとおりである。

いずれの溝も埋土からの出土遺物は、少なくかつ小片ばかりで、遺構の時期決定は困難であるが、鎌倉～江戸時代の遺構であろう。

Ｂ．土坑

ＳＫ76　調査区の南東で検出したもので、6.3×2.0m以上の大型の土坑である。埋土から室町時代以降の遺物が出土している。

（４）時期不明の遺構

Ａ．土坑

ＳＫ16・19・30・47・58・64・65・69の８基については、出土遺物が皆無または少量であるため時期不明とした。なお規模等については第４表のとおりである。

遺構	規模（m）	面積（㎡）	深さ（cm）	長軸方向	カマド	出土遺物	時代	備考（発掘時遺構名）
SB 4	6.6×4.6	(30.36)	10	N29° E	不明	石鏃（1）、弥生土器	弥生時代	B37 SB1,B38 SB1
SB 6	2.5×2.4	6.00	5	N16° E	東辺・60×60cm	土師器（杯・甕）須恵器小片	飛鳥時代	G39 SB1
SB77	4.0以上×3.9	15.6以上	10	N66° W	北辺	弥生、土師器甕、須恵器小片	古墳時代以降	B30 SB4,B31 SB2
SB78	4.4×3.7	16.28	10	N69° E	北辺・径60cm	弥生、土師器小片	古墳時代以降	F36 SB1,G36 SB1
SB79	2.6以上×2.0	5.2以上	5	N 8° W	不明	土師器甕	古墳時代以降	E38 SB4

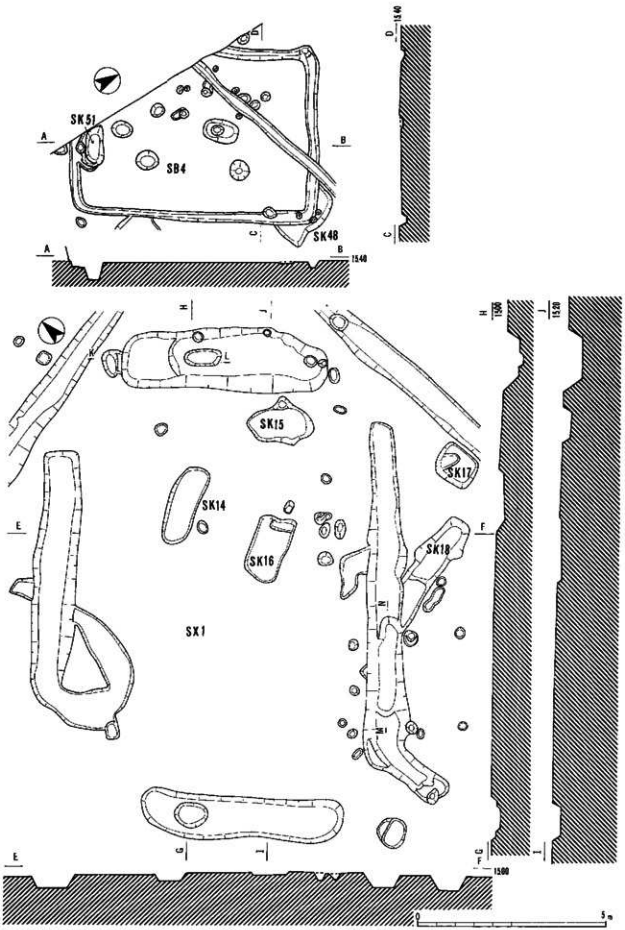
第３表　竪穴住居一覧表

遺構	平面形	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	出土遺物	時代	発掘調査時遺構名
SK 3	楕円形	2.5	1.6	0.5	弥生土器壺(34～37)・高杯(38)・甕(39～48)	弥生時代	D37 SK4
SK12	細長い	5.0	1.1	0.2	弥生土器壺(60)	弥生時代	J16 SK1
SK13	細長い	4.8以上	1.5	0.7	弥生土器壺(49～54・56～58)・水差形土器(55)・甕(59)	弥生時代	G17 SK1,G18 SK1
SK14	細長い	2.2	0.8	0.2	弥生土器	弥生時代	K18 SK1
SK15	楕円形	1.8	1.0	0.3	弥生土器壺(61)	弥生時代	L19 SK2
SK16	長方形	1.8	1.0	0.1	遺物なし	不明	K19 SK1
SK17	長方形	1.1	0.9	0.2	弥生土器	弥生時代	L20 SK1
SK18	細長い	3.1以上	0.8	0.4	弥生土器	弥生時代	K20 SK2
SK19	不明	2.0	不明	0.2	遺物なし	不明	L21 SK2
SK20	円形	径1.8		0.4	弥生土器(64)	平安時代	J21 SK2
SK21	楕円形	1.1	0.9	0.2	土師器片	奈良～平安	J21 SK3
SK22	不定形	1.9	1.5	0.4	弥生土器	弥生時代	C23 SK1
SK23	楕円形	1.6	1.1	0.2	弥生土器壺（62・63）	弥生時代	C23 SK2
SK24	不明	2.1以上	1.9	0.2	弥生土器	弥生時代	K23 SK2
SK25	不明	1.1以上	0.6以上	0.2	土師器・須恵器（？）片	古墳～平安	I24 SK1
SK26	円形か？	径1.8		0.2	弥生土器	弥生時代	K24 SK2
SK27	長方形	1.1	0.8	0.5	弥生土器	弥生時代	C25 SK1
SK28	長方形	1.0以上	0.9	0.3	土師器・須恵器片	古墳～平安	B28 SK2
SK29	長方形	2.2	1.4	0.1	土師器・山茶碗片	平安時代	I28 SK1 SB9の床東隅
SK30	細長い	2.1	0.5	0.2	小片	不明	D30 SK1
SK31	三角形	2.9	2.8	0.4	土師器皿（180）・甕（181）、須恵器杯(182)・壺（183）	奈良時代	D30 SK2
SK32	楕円形	1.8	1.4	0.2	土師器杯(184)・甕、須恵器片	奈良～平安	E30 SK1
SK33	不明	不明	不明	0.2	弥生土器壺(65)・高杯(66)・甕(67)	弥生時代	A31 SK1
SK34	長方形？	1.5以上	0.8	0.3	弥生土器壺(79～81)・高杯(82)・甕(83・84)・甕(85～88)	弥生時代	B31 SK3
SK35	長方形	2.4	0.9	0.6	弥生土器壺(68～70)・高杯(71)・蓋(72)・甕(73・74)	弥生時代	B31 SK1,C31 SK2(?)
SK36	長方形	1.0	0.8	0.1	弥生土器	弥生時代	B32 SK1
SK37	楕円形	1.3	0.7	0.6	弥生土器甕(75・76)	弥生時代	B32 SK2
SK38	楕円形	1.0	0.7	0.2	弥生土器	弥生時代	D32 SK1
SK39	長方形	1.5	1.1	0.5	弥生土器壺(77)	弥生時代	G31 SK1
SK40	長方形	1.7	0.6	0.1	土師器椀	古墳～平安	J32 SK1
SK41	長方形	0.9	0.7	0.1	土師器、須恵器片	古墳～平安	I34 SK1

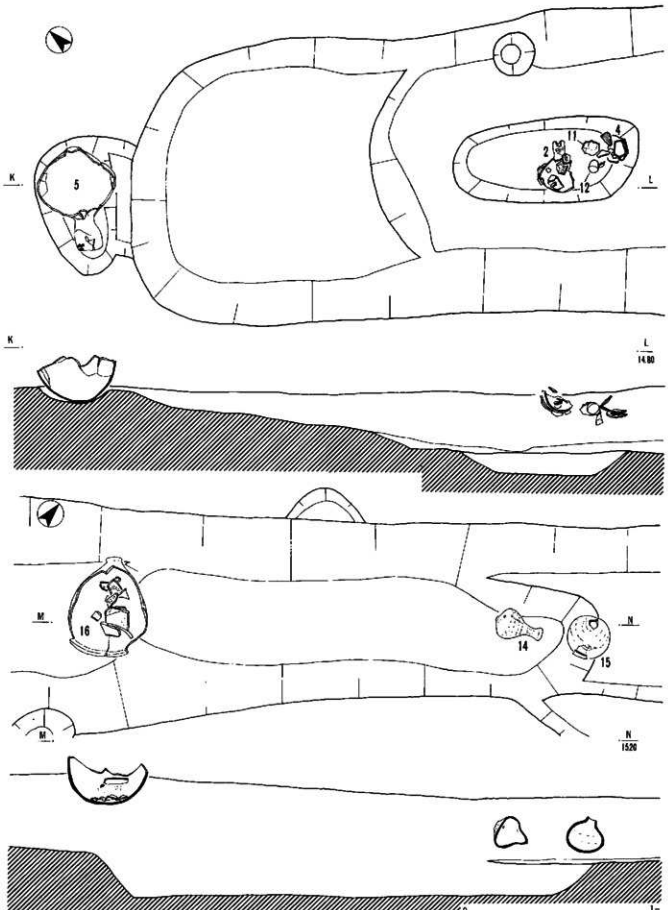
第４－１表　土坑一覧表

遺構	平面形	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	出土遺物	時代	発掘調査時遺構名
SK42	細長い	3.0	1.9	0.6	弥生土器壺(89～94)・高杯(95・96)・蓋(97・98)・甕(99・105)、石鏃(106)	弥生時代	C35 SK1,B36 SK2
SK43	不明	2.0以上	0.4以上	0.2	弥生土器	弥生時代	C35 SK3
SK44	不明			0.4	弥生土器	弥生時代	A36 SK2
SK45	細長い	2.3	0.8	0.3	弥生土器（多量）、＊（須恵器1片）	弥生時代	C36 SK2
SK46	細長い	2.9	1.0	0.2	弥生土器	弥生時代	G36 SK2
SK47	楕円形?	2.0	0.8以上	0.4	遺物なし	不明	G36 SK3
SK48	長方形?	1.7	1.0	0.2	弥生土器	弥生時代	B37 SK3
SK49	不定形	1.5	0.8	0.2	弥生土器	弥生時代	E37 SK5
SK50	長方形	1.4	0.8	0.3	弥生土器	弥生時代	I37 SK1
SK51	楕円形	1.1	0.5	0.5	弥生土器壺(78)	弥生時代	A38 SK1
SK52	細長い	3.7以上	1.2	0.3	弥生土器	弥生時代	B38 SK2(SD2)
SK53	楕円形	1.1	0.7	0.3	弥生土器	弥生時代	C38 SK2
SK54	長方形?	0.9	1.0	0.1	弥生土器	弥生時代	C38 SK3
SK55	楕円形	2.1	1.2	0.4	弥生土器	弥生時代	E38 SK5a
SK56	楕円形	1.5	0.9	0.4	弥生土器	弥生時代	E38 SK5b
SK57	不明	1.3	0.9	0.3	弥生土器	弥生時代	E38 SK5c
SK58	不定形	1.6	1.5	0.2	遺物なし	不明	F38 SK3
SK59	不定形	2.2	1.4	0.4	石槍、弥生土器	弥生時代	G38 SK1 重複か?
SK60	細長い	3.0	1.0	0.5	弥生土器	弥生時代	I38 SK1
SK61	長方形	3.2	1.1	0.4	弥生土器	弥生時代	E39 SK4
SK62	円	径1.3		0.2	弥生土器壺(107)・甕(108)	弥生時代	F39 SK3
SK63	細長い	3.5	0.7	0.3	弥生土器	弥生時代	G39 SK2
SK64	正方形	0.8		0.2	上師器甕(137)	平安時代	L39 SK1
SK65	長方形	1.8	0.7	0.3	遺物なし	不明	L39 SK3
SK66	楕円形	1.4	0.6	0.5	弥生土器甕(109)	弥生時代	E40 SK1
SK67	不明	1.5以上	0.4以上	0.5	弥生土器甕(110)	弥生時代	L41 SK3
SK68	細長い	2.4以上	0.9	0.6	弥生土器壺(111～116)・甕(117～118)	弥生時代	A42 SK1
SK70	長方形	1.3	1.1	0.3	弥生土器	弥生時代	B42 SK1
SK71	楕円形	2.2	1.2	0.4	弥生土器	弥生時代	B42 SK2
SK72	長方形	2.1	1.1	0.5	弥生土器	弥生時代	H42 SK1
SK73	不明	1.1以上	0.7	0.2	弥生土器壺(119～120)・甕(121)	弥生時代	H42 SD2(SK2)
SK74	細長い	2.8	1.0	0.2	弥生土器	弥生時代	I44 SK1
SK75	不定形	1.8	1.0	0.1	弥生土器甕(122・123)	弥生時代	J44 SK1
SK76	方形?	6.3	2.0以上	0.2	土師器、須恵器、山茶碗、陶器小片	室町以降	M45 SK1
SK101	楕円形	1.3	0.9	0.3	弥生土器	弥生時代	T29 SK2（中電SK１）
SK102	長方形	1.6	0.6	0.2	弥生土器	弥生時代	T29 SK3（中電SK２）
SK103	細長い	1.6以上	0.7	0.4	弥生土器	弥生時代	T31 SK1（中電SK３）
SK104	細長い	2.2以上	0.7	0.5	弥生土器壺(124・125)・甕(126・127)	弥生時代	T29 SK4（中電SK４）

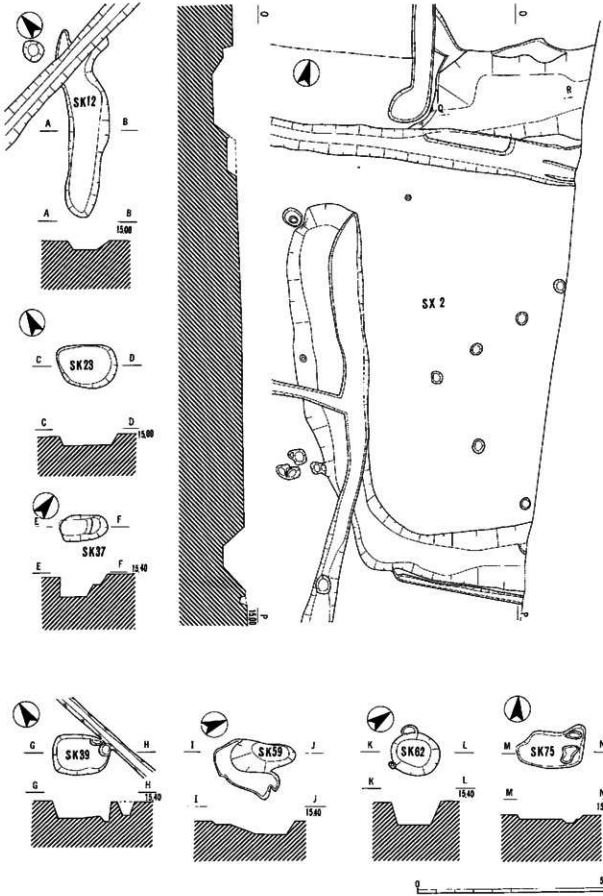
第４－２表　土坑一覧表



第8図　SB4,SK48-51,SX1,SK14～18実測図（1：100）

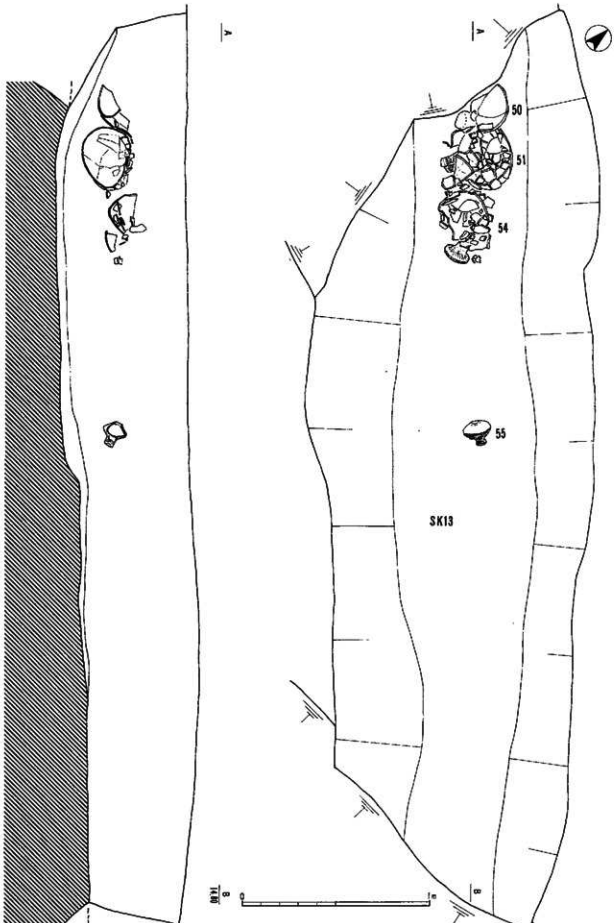


第９図　SX１北東周溝・南東周溝土器出土状況図（１：20）

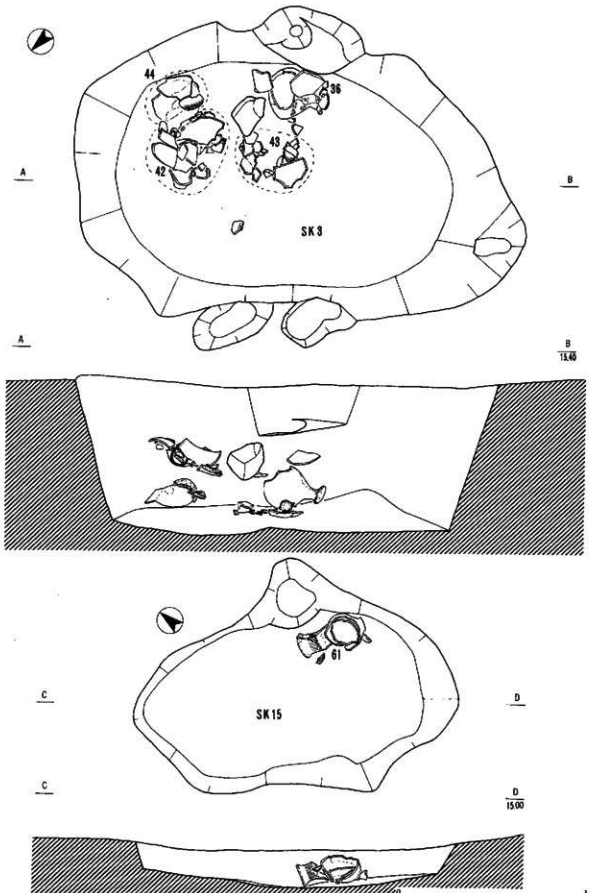


第10図　SX2,SK12・23・37・39・59・62・75実測図（1：100）

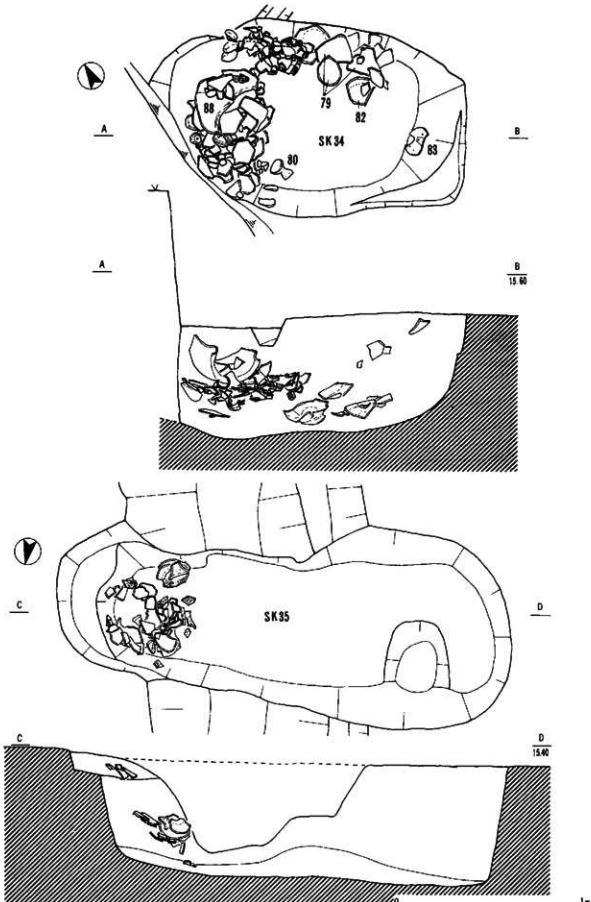
第11図　SX2北周溝遺物出土状況図（1：20）



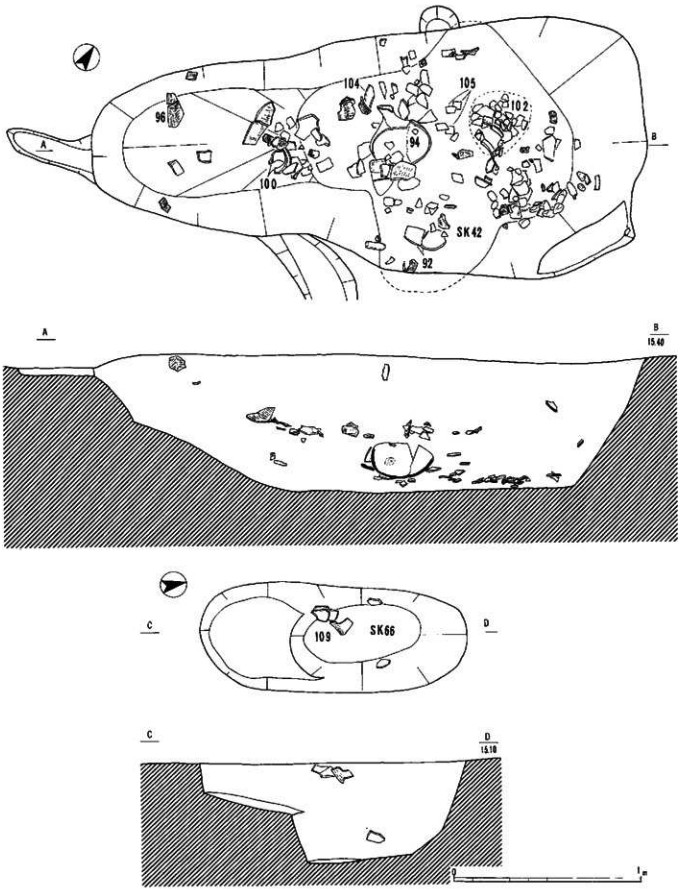
第12図　SK13遺物出土状況図（1：20）



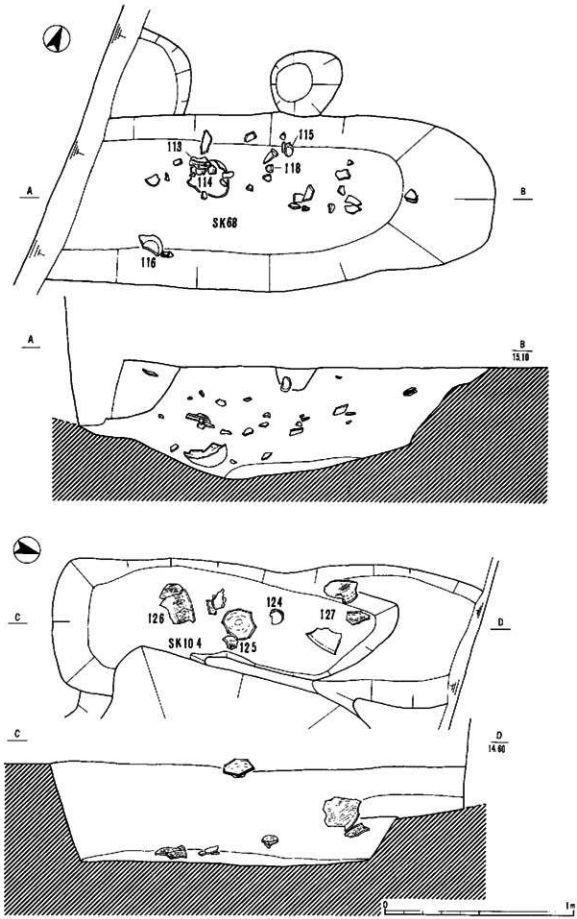
第13図　SK3・15遺物出土状況図（1：20）



第14図　SK34・35遺物出土状況図（1：20）



第15図　SK42・66遺物出土状況図（1：20）



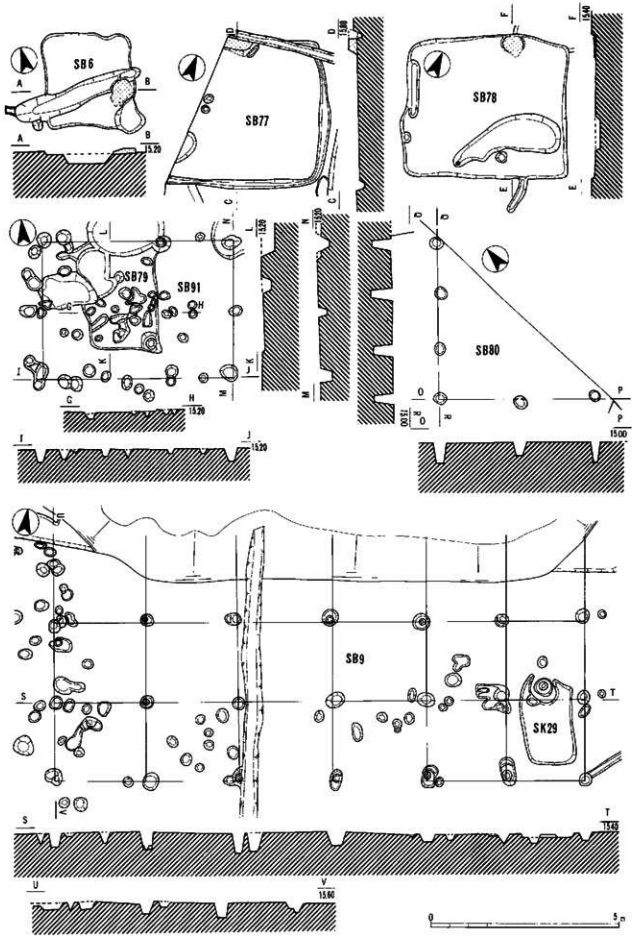
第16図　SK68・104遺物出土状況図（1：20）

遺構	規模（間）	検方向	桁行（m）	梁行（m）	柱間寸法（m） 桁行	柱間寸法（m） 梁行	出土遺物（時代）	柱穴 Pit 名	備考
SB9	6×2以上	N79° E	13.4	4.2以上	2.1+2.1+2.4+2.4+2.4+2.4	2.1等間	土師器皿・杯等小片、山茶碗小片（平安）	B28P3,F28P1,P3,H28P1,P2,F29P1,H29P1,P2	
SB80	3以上×2以上	N40° E	4.2以上	4.2以上	1.4等間	2.1等間	土師器小片（不明）	N18P1	
SB81	2以上×2	N7° W	不明	3.6	1.5+・・・	1.8等間	土師器小片（不明）	M20P1	
SB82	3×2	N47° W	4.5	2.4	1.5等間	1.2等間	土師器小片（不明）	K20P3	
SB83	2×2	N7° W	4.2	3.6	2.1等間	1.8等間	土師器甕・杯等小片、須恵器杯底部（奈良）	I22P1,P2,J23P1,P3	
SB84	3×2以上	N6° W	5.1	1.9以上	1.7等間	1.9+・・・	なし		
SB85	1以上×2	N6° W	1.1以上	3.0	1.1+・・・	1.5等間	土師器、須恵器小片（不明）1柱	N23P1,P2	総柱
SB86	3×2	N17° W	4.5	3.4	1.5等間	1.7等間	土師器、須恵器小片（不明）	J26P1,K26P1,P2	
SB87	3以上×3	N25° W	5.0以上	6.1	1.6+1.6+1.8+・・・	1.5+1.8+2.8	土師器甕等小片、須恵器小片（平安）	C28P1,P2,A29P1,B29P2,C29P1,B30P1	
SB88	3×2	N83° E	4.8	4.2	1.6等間	2.1等間	土師器皿(159)・杯小片（平安）	E35P1～4,F35P1,P3,E36P4,P6,F36P3	
SB89	4×2	N7° W	6.7	4.0	2.0+1.6+1.4+1.7	2.2+1.8	土師器甕小片（不明）	Z35P6,E36P5,P7,D37P2	
SB90	3×2	N12° W	5.4	4.4	1.8等間	2.2等間	土師器杯(160・161)・皿(162・163)・甕小片（奈良）	N38P1,P2,L39P2,M39P1,P2,	
SB91	3×2	N86° E	5.1	3.6	1.7等間	1.8等間	土師器甕等小片（不明）	D38P2,P5,F38P2,E39P2,P39P1,	
SB92	4×3	N74° E	7.2	4.4	2.0+1.6+1.8+1.8	1.5+1.3+1.6(1.2+1.6+1.6)	土師器杯・甕等小片（不明）	B38P4,C38P1,A39P1	
SB93	3以上×3	N79° E	10.0	7.2	身舎2.2+・・・庇2.4	身舎2.4等間庇2.4	土師器甕等小片、須恵器小片（不明）	B39P1,B40P1,P2,C40P3,B41P3	北面・東面廂
SB94	4×2	N84° E	6.0	3.8	1.5等間（1.2+1.5+1.5+1.8）	1.9等間	土師器小片（不明）	G40P1	
SB106	3以上×1以上	N24° W	4.4以上	1.8以上	1.7+1.4+1.4+・・・・	1.8+・・・・	土師器小片（不明）	U30P1	総柱 中世SB6

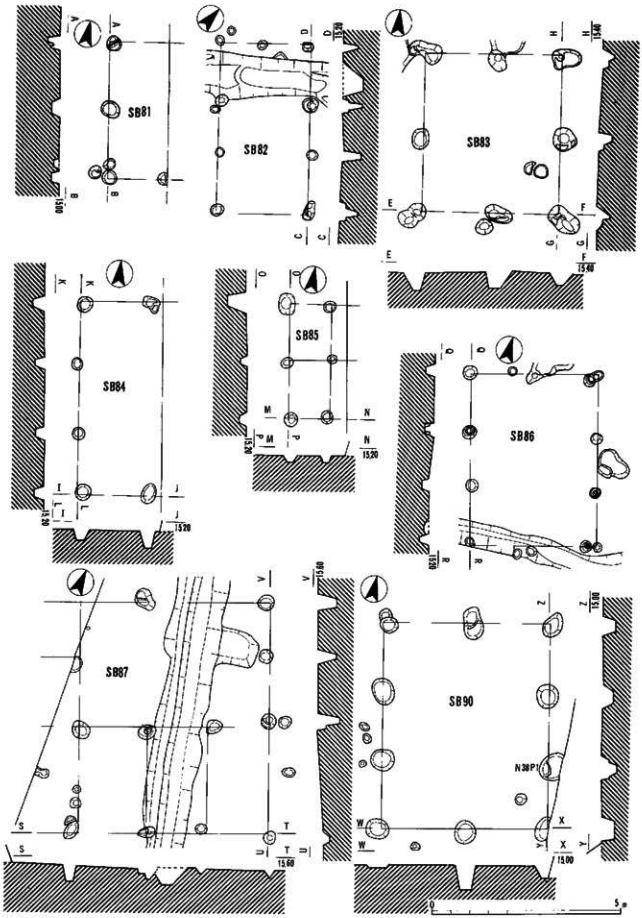
第5表　掘立柱建物一覧表

遺構名	長さ（m）	幅（m）	深さ（cm）	方向	出土遺物	時代	備考（発掘時遺構名）
SD95	18以上	0.5～1.2	5～20	N11° W	土師器、陶器	近世以降	L14SD1,L15SD1
SD96	19以上	0.6～1.1	20～50	N84° E	須恵器、山茶碗(217)	平安以降	L16SD1,M16SD1
SD97	16以上	0.4～1.1	15～30	N84° E	須恵器、陶器、瓦(223)	中世以降	I17SD1,J17SD1,K17SD1
SD98	93以上	0.4～1.1	10～50	N82° E N12° W	土師器、須恵器、陶器天目(222)・鉢(221)、瓦	中世以降	L17SD1,L18SD1,L19SD1,L21SD1,L22SD1,L23SD,1,L27SD1
SD99	72以上	0.7～1.7	30～60	N14° W	土師器、須恵器、山茶碗(218・219)、陶器灰釉、瓦、五輪塔(224)、近世陶器	近世以降	B26SD1,B27SD1,B28SD1,B29SD1,B30SD4,C31SD2,C32SD1,C33SD1,C34SD2,C36SD5,C38SD1,D39SD2,D40SD1,D42SD1
SD100	38以上	1.0～1.5	25～45	N76° E	土師器、須恵器、陶器、円曲俎(216)	中世以降	L41SD1,M41SD1

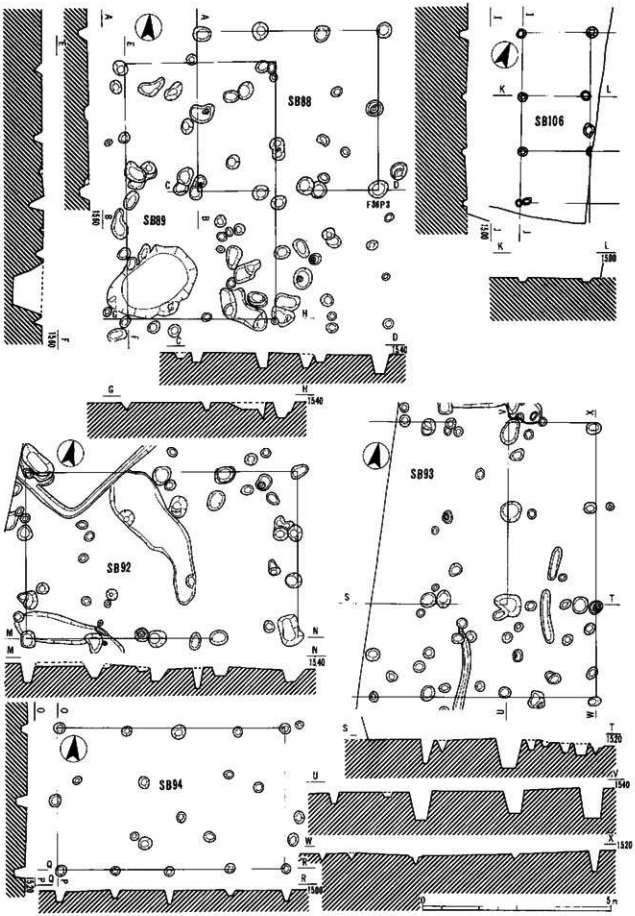
第6表　溝一覧表



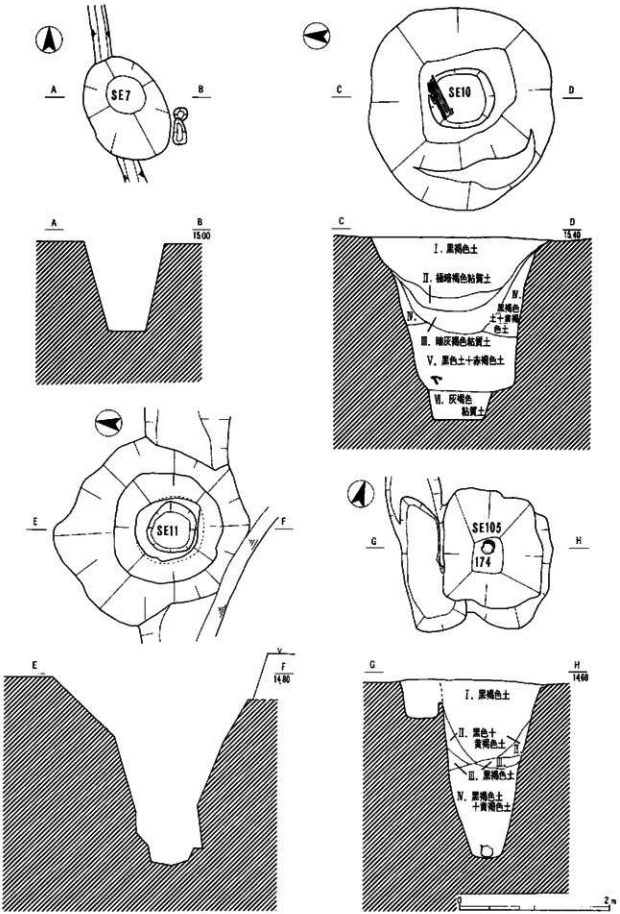
第17図　SB６・77～79・91・80・９,SK29実測図（１：100）



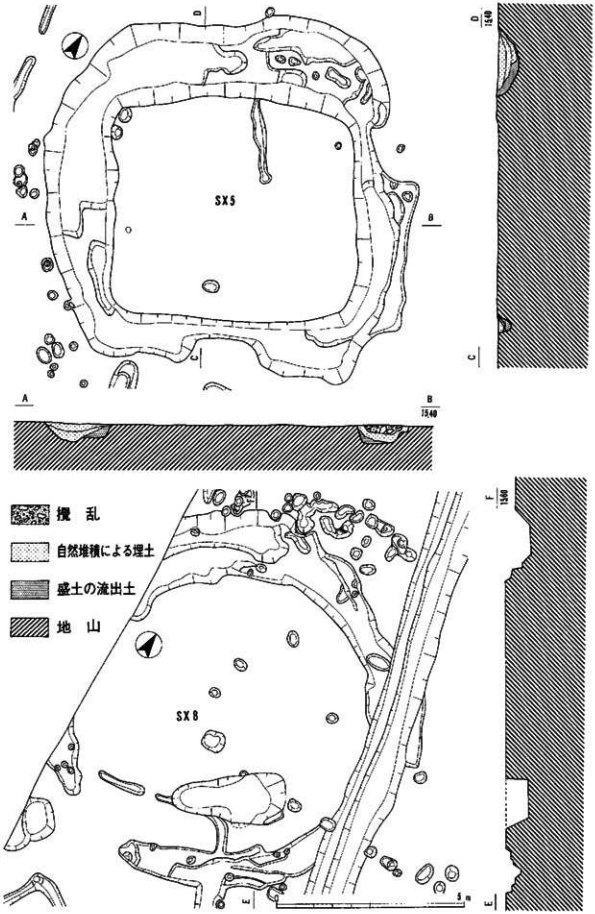
第18図　SB81～87・90実測図（1：100）



第19図　SB88・89・92～94・106実測図（1：100）



第20図　SE７・10・11・105実測図（１：50）



第21図　SX５・SX8実測図（１：100）

Ⅳ. 遺　　物

1．弥生時代の遺物

方形周溝墓、土坑、遺物包含層等から弥生土器壺・水差形土器・鉢・蓋・甕、土製円盤[6]、石斧、石鏃、スクレーパー、磨石等が出土している。個々の遺物の特徴等については、第7表のとおりである。

2．古墳～平安時代の遺物

掘立柱建物、竪穴住居、井戸等から土師器壺・椀・杯・皿・甕、須恵器杯・蓋、灰釉陶器、山茶碗、陶硯等が出土している。出土量としては奈良時代と平安時代のものが比較的多い。個々の遺物の特徴等については、第7表のとおりである。

特殊遺物としては、円面硯(216)、墨書土器(198・199)が挙げられる。墨書土器はいずれも土師器坏の底部外面に墨書されたものである。(198)は「令」または「会」である。(199)は判読が難しいが、二字であれば「何人」または「河人」、一字であれば「寶」または「厨」などの可能性が考えられる[8]。

3．鎌倉時代以降の遺物

溝ＳＤ95～100から山茶碗、陶器鉢、陶器天目茶碗、瓦（軒丸瓦）、五輪塔（空風輪）などが出土した。

4．時期不明の遺物

紙石(225～227)が3点出土した。いずれも遺物包含層出土である。

Ⅴ. 結　　語

1．弥生時代の遺構について

弥生時代の主な遺構は、竪穴住居1棟、方形周溝墓2基、土坑53基である。

方形周溝墓はＳＸ１・２の２基でともに調査区の北東部に位置する。時期はともに中期後葉と考えられる。

土坑は、調査区北部の方形周溝墓周辺と調査区南西部にみられるが、特に南西部に集中している。これらの土坑の時期は出土遺物から判断すれば、ＳＫ15・75が中期前葉、ＳＫ68が中期前葉から中葉、ＳＫ３・13・33・34・35・37・39・42・51・62が中期後葉と考えられる。弥生時代とした他の土坑は出土遺物が少なく明確な時期は、判断しがたいが、その多くは中期と考えてよいであろう。

これらの土坑は埋土からは骨片等を検出していないが、出土土器のなかには底部または胴部下半に穿孔がみられるものもあり、土坑墓の可能性が高いと考えられる土坑もある。方形周溝墓および土坑の埋土は土壌分析を行ったが、そのほとんどから濃度の高いカルシウム、リンが検出され、人骨等の含有が推察された。詳しくは付編を参照されたい。

今回の調査区では北から南へ、すなわち河岸段丘上の縁端部から内側にむかって、方形周溝墓、土坑、竪穴住居という順に配置されている[9]。段丘上あるいは台地上に立地する遺跡で、墓域が縁端部に、住居域がその内側に展開すると考えられている三重県下の遺跡には、住居跡が未検出の遺跡も含めれば、金剛坂遺跡[10]、花ノ木遺跡[11]、片野遺跡、永井遺跡、東庄内Ｂ遺跡[12]、ド之庄東方遺跡[13]等がある。鳥居本遺跡の場合、竪穴住居はＳＢ４の１棟だけでしか検出しておらず、どのような「集落」であったかを判断することは困難である。

2．弥生時代の遺物について

弥生時代の遺物は、前期から中期のものが出土した。前期第Ⅰ様式新段階の遺物には、包含層出土ではあるが、壺(137)がみられる。中期第Ⅱ様式の遺物には、ＳＫ15出土の壺(61)、ＳＫ75出土の甕(122・123)等がみられるが、その量はあまり多くはない。中期第Ⅳ様式すなわち凹線文の出現する時期は、今回の調査区の中心となる時期である。この時期の遺物には方形周溝墓や土坑から出土した土器が多量にあり、とりわけＳＸ１・２、ＳＫ３・13・34では完形の壺・甕等、良好な資料が出土している。

これらの第Ⅳ様式の土器には、畿内的な要素をもつものと、在地的なものがみられる。畿内的なものとしてはＳＸ１出土の壺（２～５）、甕（16）、ＳＸ２出土の壺（17・28～30）、ＳＫ３出土の壺（35～37）・鉢（38）、ＳＫ13出土の壺（54）、水差形土器

(55)、ＳＫ34出土の壺（79～81）などが挙げられる。(17）は、頸部～胴部上半にかけて櫛状文、直線文を施こした後、その文様をハケで徹底的に消しており、他の壺に比べ、特異な調整である。在地的なものにはＳＸ１出土の壺（14・15）、ＳＸ２出土の壺（25・26）、ＳＫ13出土の壺（50・51）などが挙げられる。また東海的な要素と畿内的な要素の両方をもつものにＳＸ２出土の壺（27）がある。

ＳＫ13出上の水差形土器(55)は畿内的な要素をもつ土器であるが、三重県下での類例は少なく、伊賀地方では名張市辻垣内遺跡Ｅ地区の竪穴住居ＳＢ12、同市下川原遺跡の竪穴住居ＳＢ10、同市中戸遺跡の方形周溝墓ＳＸ14、伊勢地方では松阪市湧早崎遺跡から出土している。

近年の弥生土器の編年は、全国各地で細分化が試みられているが、当遺跡の資料も伊勢湾西岸地域における弥生時代中期の好資料となろう。

４．奈良時代の周溝遺構について

奈良時代の周溝遺構は方形周溝ＳＸ５、円形周溝ＳＸ８の２基を検出した。

奈良時代の周溝遺構については不明な点が多いが、三重県内の類例としては、金剛坂遺跡辰ノ口地区の方形周溝状遺構ＳＸ13と、斎宮跡の14基の円形周溝と３基の方形周溝がある。また時期は少し古くなるが、川原表古墳群の７・８号墳は７世紀の終わりから８世紀の初めとされている。

斎宮跡の17基の周溝遺構のうち４基から須恵器長頸壺が出土しており、祭祀に伴う遺物の可能性が大きいと考えられている。鳥居本遺跡で検出した周溝遺構の場合は、出土した土器はいずれも破片であり、祭祀の可能性を示す遺物は確認できなかった。

５．飛鳥～平安時代の建物について

飛鳥～平安時代と考えられる建物は、竪穴住居４棟、掘立柱建物17棟を検出した。

①飛鳥時代

この時期の建物は竪穴住居ＳＢ６の１棟のみである。他の３棟の竪穴住居は時期不明であり、今回の調査では当該期については充分な資料が得られなかった。

②奈良時代

奈良時代の掘立柱建物は調査区の北東に位置するＳＢ83と調査区の南東に位置するＳＢ90の２棟である。ＳＢ83の東側約13mの位置に棟方向を揃えて、ＳＢ81・84・85が位置するが、この３棟は、出土遺物からは時期を特定できないが、ＳＢ83と棟方向を揃えていることから、同時期の可能性が高い。

③平安時代

平安時代の掘立柱建物は調査区の中央に位置するＳＢ９・87と南側に位置するＳＢ88の３棟である。

ＳＢ88と重複してＳＢ89、さらに南側にはＳＢ91・94が位置しており、これらを含む４棟は３×２間または４×２間の側柱建物であるが、棟方向がＮ７°Ｗとほぼそれに直交するＮ83～86°Ｅであり、一群としてとらえることができる。この建物群のさらに南の、調査区南端に位置する井戸ＳＥ11からは平安時代中期の遺物が出土しているが、付随するものであろうか。

ＳＢ87は東柱を持つ建物であり、ＳＢ９は南東隅土坑ＳＫ29を伴う総柱建物である。また鉄塔地区では、総柱建物と思われるＳＢ106がみられる。ＳＢ87とＳＢ106は棟方向がＮ24～25°Ｗと揃っている。こうした東柱をもつ建物や総柱建物は一般に平安時代後葉以降の特徴とされている。ＳＢ９とＳＢ87の間にある井戸ＳＥ10からは平安時代の遺物が出土していることから、これらの建物に伴うものと推定される。

④その他

出土遺物からは時期不明で、かつ棟方向や他の建物との位置関係からも時期の推定が困難な建物にはＳＢ80・82・86・92・93がある。

調査区の北東に位置するＳＢ80・82の２棟については棟方向はＮ40°Ｅ とＮ47°Ｗで、ほぼ直交していることから同時期と考えてよいであろう。

調査区南西端のＳＢ93は南面と東面に雇をもつ建物であるが、棟方向が揃う建物には奈良時代のＳＢ90と平安時代のＳＢ９があるが、時期な関連は不明である。

ＳＢ92はＳＢ93の北に隣接しているが、棟方向が揃う建物には調査区中央東寄りに位置するＳＢ86がみられるが、同時期と判断する積極的な根拠はない。ＳＢ92・93ともに詳細な時期は不明である。

以上のように掘立柱建物の時期を判断したが、柱

穴壁上からの出土遺物の多くは小片であるため、不明な点が多く、推定を交えての時期決定となった。今回の調査範囲だけで全ての建物の時期を決定することは困難である。今後隣接地で発掘調査が行われる事があれば再考したい。

(註)

① 橋生進・・古村利男「鳥居本遺跡発掘調査報告」一志町教育委員会 1975

② 古村利男「原始・古代の一志町」「一志町史」一志町役場 1981

③ 『近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告 第3分冊 1』三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1991

④ 小坂宜宜「馬尻本遺跡」「近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告 第3分冊5」三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1991

⑤ 『三重県埋蔵文化財センター年報1.』三重県埋蔵文化財センター 1990

⑥ 註②に同じ

⑦ 註②に同じ

⑧ 『三重県埋蔵文化財年報18』三重県教育委員会 1988

⑨ 為見宜雄・高森英純「針箱遺跡・下之庄東方遺跡」嬉野町教育委員会・嬉野町遺跡調査会 1987

⑩ 新田洋「近竜橋遺跡」「昭和56年度農営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告」三重県教育委員会 1982

⑪a．河瀬信幸ほか「片野遺跡発掘調査報告」三重県教育委員会 1985

b．伊勢野久好「片野遺跡発掘調査報告」一志町教育委員会 1986

c．伊勢野久好「片野遺跡第二次発掘調査報告」一志町教育委員会 1989

⑫a．鈴木克彦ほか「一越河川中村川埋蔵文化財発掘調査概要 I 下之庄東方遺跡（西浦地区）」三重県教育委員会 1987

b．鈴木克彦ほか「一越河川中村川埋蔵文化財発掘調査概要 II 下之庄東方遺跡（小野・国分地・夜ノ森地区）」三重県教育委員会 1988

c．⑥に同じ

⑬ 辻富美雄「長持元屋敷遺跡発掘調査報告」久居市教育委員会 1980

⑭ 註②に同じ

⑮ 註②に同じ

⑯ 辻富美雄・伊勢野久好「中野山古墳群発掘調査報告」一志町教育委員会 1988

⑰ 伊勢野久好「西出山古墳群発掘調査報告」一志町教育委員会 1988

⑱ 註③に同じ

⑲ 『三重県埋蔵文化財年報17』三重県教育委員会 1987

⑳ 註⑧に同じ

㉑a．註⑧に同じ

b．『三重県埋蔵文化財年報18』三重県教育委員会 1988

c．山崎信雄・橋本賢治「西野7号墳」「近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告 第3分冊4」三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1991

㉒『三重県埋蔵文化財年報18』三重県教育委員会 1988

㉓ 下村登良男「下名倉古墳群発掘調査報告」一志町教育委員会 1971

㉔ 下村登良男・谷本鋭次・山沢義貴「上野遺跡・上野山古墳群発掘調査報告」一志町教育委員会 1971

㉕ 伊藤克幸「上野山氣塚4号墳発掘調査報告」三重県埋蔵文化財センター 1990

㉖ 山田猛「天花寺廃寺」「昭和55年度農営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告」三重県教育委員会 1981

㉗ 和気清平「上野廃寺」「嬉野町埋蔵文化財調査概要 平成元年度」 嬉野町教育委員会 1990

㉘ 註⑨に同じ

㉙ 古村利男・芦部公一ほか「平生遺跡発掘調査報告」平生遺跡調査団 1976

㉚ 『牧遺跡発掘調査概要』久居市教育委員会

㉛ 新谷洋「桜野遺跡」「近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告 第3分冊4」三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1991

㉜ 田村海一「大仙遺跡A・B地区」「近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告 第3分冊6」三重県教育委員会・三重県埋蔵文化財センター 1991

㉝ 河中秀久雄「上野垣内遺跡」「昭和54年度農営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告」三重県教育委員会 1980

㉞ 註④に同じ

㉟ 土器片を円形に加工した製品には加工円盤、小円盤等様々な呼び方があるが、ここでは土器円盤と呼称しておきたい。

㊱ 文字の判読にあたっては、榎村寛之、小林秀岡氏のご協力を得た。

㊲ 当遺跡における集落と墓域の立地についてはすでに指摘されている。

・伊藤裕偉「伊勢地域の弥生墓制 一方形周溝墓を中心として一」「伊勢湾岸の弥生時代中期をめぐる諸問題」第7回東海埋蔵文化財研究会 1990

・伊勢野久好「伊勢のムラ 一櫻川以北の「北伊勢」を中心として一」「伊勢湾岸の弥生時代中期をめぐる諸問題」第7回東海埋蔵文化財研究会 1990

㊳a．山澤義貴・谷本鋭次「金剛坂遺跡発掘調査報告」明和町教育委員会 1971

b．田村海一・浅尾悟・宮田勝功「金剛坂遺跡」「昭和59年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告」三重県教育委員会 1982

㊴ 田村海・「花ノ木（山崎）遺跡」「近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告 第1分冊1」三重県教育委員会 1989

㊵ 註⑩に同じ

㊶ 小玉道明ほか「永井遺跡発掘調査報告」四日市市教育委員会 1973

㊷ 小玉道明・山澤義貴・谷本鋭次「庚庄内B遺跡」「東名阪道路埋蔵文化財調査報告」日本道路公団名古屋支社・三重県教育委員会 1970

㊸ 註⑧に同じ

㊹ 中村信裕ほか「辻垣内遺跡・上野野遺跡」「昭和57年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告」三重県教育委員会 1983

㊺ 門田了三「下川原遺跡」名張市遺跡調査会 1986

㊻ 仁俣香作・千葉豊「中口遺跡」「昭和61年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告 I」三重県教育委員会 1989

㊼ 『三重県埋蔵文化財センター年報2.』三重県埋蔵文化財センター 1991

㊽ 註⑤b.に同じ

㊾ 『三重県倉宮跡調査事務所年報 1986 史跡倉宮跡発掘調査概報』三重県教育委員会・三重県倉宮跡調査事務所 1987

㊿ 内田浩史ほか『中部平成台団地埋蔵文化財発掘調査報告書』松阪市教育委員会 1990

遺物番号	整理番号	出土遺跡・位置	器種・器形	口径(cm)・器高(cm)	遺存度	成形・調整技法の特徴等	色調・胎土・焼成	備考
1	3-0221	S Ⅱ 4	石鏃	長さ 3.7 幅 1.1 厚さ 0.6	完形	凸基有茎鏃	石材はサヌカイト	
2	3-0110	S X 1 南東周溝	弥生上器 鉢状壺	6.0 不明	口縁部 胴部 1／4	外面は口縁部に簡状文、胴部上半は斜縄文、並行沈線は波状文、下半はヘラミガキ。内面は胴部下半にハケメ。	黄橙 やや粗砂粒含 良	『概報Ⅴ』(15)
3	3-0106	S X 1 南東周溝	弥生中器 壺	不明 不明	頸部 1／4	外面頸部に簡状文。	淡黄 細密 堅	
4	3-0105	S X 1 南東周溝	弥生上器 壺	不明 不明	胴部 1／6	外面は胴部上半に直線文、農人道部付近は波状文、下半はヘラミガキ。胴部内面はハケメ。	淡黄橙 やや粗砂粒含 良	
5	3-0111	S X 1 南東周溝	弥生中期 鉢状壺	12.6 53.6	1／2	外面は口縁部に沈線文、胴部下半は斜縄文、胴部下半はハケメのちヘラミガキ。最下部はナデ。内面は胴部下半にハケメ、ハケメ。	黄橙 やや粗砂粒含 良	『概報Ⅴ』(17) 胴部下半に黒斑
6	3-0102	S X 1 北東周溝	弥生上器 広口壺	不明 不明	口縁部小片	外面は口縁部に簡状文。	淡黄 やや粗砂粒含 堅	
7	3-0101	S X 1 北東周溝	弥生上器 壺	不明 不明	胴部小片	外面は胴部ハケメのち波状文。	淡黄橙 やや粗砂粒含 軟質	
8	3-0103	S X 1 北東周溝	弥生上器 壺	不明 不明	胴部小片	外面は胴部に条痕？、波状文、ハケメ。	淡黄褐 細砂粒含 良	
9	3-0100	S X 1 北東周溝	弥生上器 壺	不明 不明	胴部下部 1／4	外面は胴部下半ヘラミガキ。	淡黄 粗砂粒含 良	
10	3-0107	S X 1 北東周溝	弥生上器	不明 不明	胴部下部	調整不明。	淡黄褐 細砂粒含 軟質	
11	3-欠番	S X 1 北東周溝	弥生上器 壺	不明 不明	底部 2/3	内面ハケメ、外面ナデ。	黄橙 粗 良	
12	3-0099	S X 1 北東周溝	石製品 砥石	長さ 平明 幅 7.8 厚さ 6.2	：／2			
13	3-0104	S X 1 北西周溝	弥生中器 鉢	(21) 不明	口縁部 1／4	外面は縦縄文の上に横縄文、胴部上半にハケメのち、ナデ。内面はナデ。	淡黄褐 粗 良	
14	3-0108	S X 1 南東周溝	弥生上器 受口状壺	7.1 24.0	底部完形	外面は縦方向沈線のち縦状文（幅約6.5mm）。胴部および胴部上半部にハケメを施したのち、胴部および胴部下半に沈線。	明褐 良	胴部下半に穿孔1小片 『概報Ⅴ』(16)
15	3-0109	S X 1 南東周溝	弥生上器 壺	不明 不明	胴部のみ	外面は全体にハケメを施した後、胴部上半は斜縄文、下半はハケメ。内面下半はハケメ。	橙 密 堅固	胴部下半に穿孔後の穿孔1小片 『概報Ⅴ』(14)
16	3-0112	S X 1 南東周溝	弥生上器 壺	22.8 46.6	2／3	外面は口縁部簡状文、胴部上半はハケメ。胴部下半はヘラミガキ。最下部はナデ。内面は全面にハケメ。	橙 やや粗砂粒含 堅	胴部に穿孔後の穿孔1小片 スス付着 『概報Ⅴ』(18) 胴部下半に黒斑
17	3-0097	S X 2 西周溝	弥生上器 広口壺	12.6 29.4	ほぼ完形	外面は口縁部端に直線文、頸部～胴部上半は簡状文を施文を施文し、その上をハケメで消す。胴部下半はヘラミガキ、最上部はナデ。内面は口縁部に2段の刷毛文、胴部にハケメ。	橙 やや粗砂粒含 堅	胴部に穿孔後の穿孔1小片 『概報Ⅴ』(19) 胴部下半に黒斑
18	3-0082	S X 2 西周溝	弥生上器 広口壺	11.4 不明	上半部 1／2	外面は口縁端部に簡状文、頸部はハケメのちナデ・沈線・円形の連続刺突、胴部上半はハケメ。	にぶい黄橙 密 堅	
19	3-0083	S X 2 西周溝	弥生中器 壺	不明 不明	底部のみ	ナデ。	橙 粗砂粒含 軟質	
20	3-0085	S X 2 西周溝	弥生上器 壺	不明 不明	胴部小片	ハケメのち波状文、直線文。	にぶい橙 粗砂粒含 堅	
21	3-0086	S X 2 西周溝	弥生上器 壺	不明 不明	胴部小片	外面は直線文、貼付突帯、突帯上に刻み。突帯間はナデ。内面はナデ。	橙 やや粗砂粒含 堅	
22	3-0079	S X 2 西周溝	弥生上器 高杯	不明 不明	脚部のみ	ナデ。内面の一部にヘラケズリ。	灰黄 密 堅	
23	3-0081	S X 2 西周溝	石製品 磨石	長さ 8.7 幅 8.1 厚さ 3.4	完形			
24	3-0090	S X 2 南東溝	弥生上器 広口壺	不明 不明	口縁部小片	外面は口縁端面に簡状文、口縁部ハケメ。内面は口縁部ハケメ。	暗黄褐 密 堅	
25	3-0094	S X 2 北東溝	弥生上器 広口壺	13.6 34.7	1／2	外面は口縁部端面に斜行文、頸部から胴部にハケメを施した後、胴部下半に直線文、最底部ナデ。内面は口縁部にハケメ、直線文、胴部下半にハケメ。	淡黄褐 密 堅	
26	3-0096	S X 2 北東溝	弥生上器 広口壺	10.4 24.0	ほぼ完形	外面は口縁部端面に斜行文、頸部から胴部にハケメを施した後、胴部上半に直線文、内面は口縁部に横状文帯（3mm×3方向）、口縁部と胴部下半にハケメ。	暗褐 密 堅	『概報Ⅴ』(20)

第7－1表　出土遺物観察表

遺物番号	整理番号	出土遺構・位置	器種	器形	口径(cm) 器高(cm)	遺存度	成形・調整技法の特徴等	胎土・調合物・焼成	備考
27	3 0095	S X 2 北側溝	弥生土器 甕		9.0 32.0	完形	胎部が張らむ。外面は縦原から胴部にハケメを施した後、口縁部に横撫(ナデ)の与え成形文(1段)、胴部にヘラによる斜撫、斜格子文、胴部上半に横撫文。	黄灰 密	『概報V』(21)
28	3-0061	S X 2 北側溝	弥生土器 広口壺		15.6 不明	口頸部完 胴1/4	外面は口縁部端面に接状文、頸部はハケ、胴部下半は横撫文、胴部縦上半部は接状文、胴部下半はハケ。内面は口縁部端面文、胴部内面はハケのちナデ。	黒褐 やや粗砂粒含	
29	3 0092	S X 2 北側溝	弥生土器 甕		不明 不明	頸部胴部上半ほぼ完	外面は頸部に横状文、胴部上半は横撫文、最大径部は接状文、胴部下半はヘラミガキ。内面は胴部にハケ後ナデ。	淡黄褐 密	
30	3-0093	S X 2 北側溝	弥生土器 広口壺		16.0 32.6	1/2	外面は口縁部端面に接状文、頸部は横状文、斜格文、胴部上半は横撫文、最大径部は接状文、下半はハケ。胴部内面は口縁部に斜格文、胴部はナデ。	赤褐 やや粗砂粒含	
31	3-0097	S X 2 北側溝	弥生土器 甕		(17) 不明	口縁部 1/10	外面は口縁横部に刻目文、胴部はハケ。内面は胴部にハケ。	灰褐 粗砂粒含	
32	3 0088	S X 2 北側溝	弥生土器 甕		(18) 不明	口縁部 1/16	外面は口縁端部に刻目文、胴部はハケ。内面は胴部にハケ。	灰褐 粗砂粒含	
33	3-0089	S X 2 北側溝	弥生土器		不明 不明	胴部下部 1/10	外面は胴部下半ミガキ。	赤褐 粗砂粒含	
34	3 0135	S K 3	弥生土器 広口壺		(18) 不明	口頸部 1/5	外面は口縁部端面に接状文、口縁部はハケメ、頸部は無文。	赤褐 やや粗砂粒含	
35	3-0126	S K 3	弥生土器 広口壺		(9) 不明	口頸部 1/2	外面は口縁部端面に接状文、頸部は横状文、胴部上半は直線文。内面は口縁刻文。	赤褐 やや粗砂粒含 良	『ニュース№16』(1) 『概報V』(1)
36	3 0147	S K 3	弥生土器 広口壺		12.0 32.3	ほぼ完形	外面は口縁部端面に接状文、頸部は斜格文、胴部上半は斜格文・接状文、下半はヘラケズリ後ヘラミガキ。内面は胴部にハケメ、口縁部は刻文。	赤褐 密 良	『ニュース№16』(2) 『概報V』(4)
37	3-0132	S K 3	弥生土器 無頸壺		(13) 不明	口縁部は欠元	口縁部に円凸2要文(2または3方向)、外面は口縁部に円凸文2条、胴部はヘラミガキか。内面は胴部にハケ。	淡赤褐 やや粗砂粒含	『概報V』(2)
38	3-0150	S K 3	弥生土器 鉢形		(23) 不明	底部ほぼ完	外面は口縁部に押圧文3条、体部はヘラケズリ後ヘラミガキ。内面は体部にハケ。	褐 粗砂粒含 黒色	『概報V』(3) スス付着
39	3-0129	S K 3	弥生土器 壺		(15) 不明	口頸部 1/5	外面は口縁部端面に刻目文、口縁部はハケメ。内面は口縁部にハケメ。	褐 密	『ニュース№16』(3) スス付着
40	3-0128	S K 3	弥生土器 壺		(12) 不明	口頸部 1/3	外面は頸部から胴部上半にハケメ。内面は口縁部にハケメ。	淡褐 密 脆弱	『ニュース№16』(4) 『概報V』(5) スス付着
41	3-0130	S K 3	弥生土器 壺		(16) 不明	口頸部 1/3	外面は口縁端部に刻目文。口頸部はハケメ。内面は口縁部にハケメ。	赤褐 密	『ニュース№16』(5) スス付着
42	3 0149	S K 3	弥生土器 壺		16.2 不明	1/2	外面は口縁部端面に刻目文、頸部部はハケメ。内面は口縁部にハケメ、胴部はナデ。	褐 密	スス付着
43	3-0127	S K 3	弥生土器 壺		17.0 23.0	1/2	外面は口縁部端面に刻目文、胴部はハケメ。内面は口縁部にハケメ、胴部はナデ。	淡褐 密 良	スス付着
44	3-0098 3 0199	S K 3	弥生土器 壺		17.8 25.5	ほぼ完形	外面は口縁部端面に刻目文、胴部はハケメ。内面は口縁部にハケメ。胴部はナデ。	淡褐 やや粗砂粒含 良	スス付着
45	3 0148	S K 3	弥生土器 壺		20.6 28.8	ほぼ完形	外面は口縁部端面に刻目文、胴部はハケメ。内面は口縁部にハケメ。胴部はナデ。	褐 やや粗砂粒含 密	スス付着
46	3-0127	S K 3	弥生土器 壺		(16) 不明	口頸部 1/6	外面は口縁部端面に刻目文、胴部はハケメ。内面は口縁部にハケメ、胴部はナデ。	褐 密	『ニュース№16』(6)
47	3-0125	S K 3	弥生土器 壺		(25) (31)	1/2	外面は口縁部端面に刻目文、胴部はハケメ。内面は口縁部にハケメ、胴部はナデ。	褐 粗砂粒含 等	『概報V』(6) スス付着
48	3-0131	S K 3	弥生土器 壺		(30) 不明	口頸部 1/8	外面は口縁部端面に刻目文、胴部はハケメ。内面は口縁部にハケメ。	褐 やや粗砂粒含 密	
49	3-0098	S K 13	弥生土器 広口壺		(15) 不明	口頸部 1/4	外面は口縁部にハケメのち沖線文。内面は口縁部にハケメ。	褐 やや粗砂粒含 脆弱	
50	3 0075	S K 13	弥生土器 広口壺		(20) 不明	上下 1/2	外面は口縁部端面に刻目文、頸部から胴部は全体にハケメを施した後、頸部に横撫文・格子文、胴部上下に直線文、胴部下半にヘラミガキ。内面は口縁部に刻目文、胴部はナデ。	にぶい褐 密	
51	3-0074	S K 13	弥生土器 壺		不明 不明	頸胴部完	外面は全面にハケメを施したのち、頸部は横位波線、公式平行沈線とハケメが縦ヘラミガキ。内面は胴部上半はナデ、下半はヘラケズリ。	灰白 密 良 胴部下半に黒斑	
52	3-0146	S K 13	弥生土器 壺		不明 不明	底部 1/2	調整不明。	にぶい褐 やや粗砂粒含 脆弱	

第7－2表　出土遺物観察表

遺物番号	整理番号	出土遺構・位置	器種器形	口径(cm)器高(cm)	遺存度	成形・調整技法の特徴等	色調	土質	備考
53	3-0076	S K13	弥生土器 壺	不明 不明	胴部下部小片	外面は胴部下部にハケメのちミガキ。内面は胴部下部にハケメ後ナデ。	橙	粗砂粒含 良	
54	3 0077	S K13	弥生土器 受口口縁壺	12.0 (40)	1／2	外面は口縁部に擬文、頸部から胴部にハケメを施したのち、粘土に沈線。	灰白	やや粗砂粒含 並	内外面とも表面の剥離が著しい
55	3-0073	S K13	弥生土器 水差形土器	4.6 11.8	ほぼ完形 胎土欠損	外面は口縁部に波状文、頸部は直線文・擬状文、胴部下半は直線文、最大径部は波状文、胴部下半はヘラミガキ。	浅黄橙 黒	やや粗砂粒含 並	『図版V 1 (22)』『フェニュ図Q1』
56	3 0179	S K13	弥生土器 広口壺	不明 不明	口縁部小片	外面は口縁端面に条痕。	黄橙	やや粗砂粒含 良	
57	3-0180	S K13	弥生土器 広口壺	不明 不明	口縁部小片	外面は口縁端面に押圧文、口縁にはハケメが残る。	淡灰褐	粗砂粒含 並	
58	3 0178	S K13	弥生土器 壺	不明 不明	胴部小片	外面は胴部にハケメのち密擬文、突帯部はナデ、突帯上はナデ。	灰褐	粗砂粒含 良	
59	3-0177	S K13	弥生土器 壺	不明 不明	胴部下部 1／4	外面ハケメ。	暗褐	粗砂粒含 並	
60	3 0062	S K12	弥生土器 壺	不明 不明	底部 1／2	外面はハケメ後ナデ。	赤褐	密砂粒含 並	
61	3-0206	S K15	弥生土器 広口壺	12.4 24.2	ほぼ完形	外面は頸部に条痕文、胴部はヘラミガキか？	橙	粗砂粒含 脆弱	外面スス付着
62	3-0064	S K20	弥生土器 壺	不明 不明	口縁部小片	外面に沈線文。	褐灰	密砂粒含 良	外面スス付着
63	3-0166	S K23	弥生土器	不明 不明	底部のみ	底部穿孔（150.5cm）	橙	やや粗砂粒含 並	
64	3-0168	S K23	弥生土器 壺	(32) 不明	上半 1／4	外面は口縁端部に刻目文、胴部はハケメ。内面は口縁部にハケメ、胴部はナデ。	灰黄褐	粗砂粒含 並	外面スス付着
65	3-0171	S K33	弥生土器 無頸壺	(10) 不明	1／4	外面は胴部ヘラミガキ。内面は胴部ナデ。	橙	良	
66	3-0169	S K33	弥生土器 鉢	不明 不明	台部 1／6	円孔透かし（数不明）。外面はヘラミガキ、ナデ。	浅黄橙	やや粗砂粒含 並 黒斑	
67	3-0170	S K33	弥生土器 甕	不明 不明	胴部2点	外面ハケメ、内面ナデ。	にぶい橙	密 並	
68	3-0057	S K35	弥生土器 壺	不明 不明	胴部小片	外面擬状文、内面ナデ。	黄橙	やや粗砂粒含 並	
69	3-0056	S K35	弥生土器 壺	不明 不明	胴部 1／3	外面ハケメ後直線文、内面ナデ。	黄橙	密 並	
70	3 0151	S K35	弥生土器 無頸壺	17.4 17.0	ほぼ完形	口縁部に空孔2箇。口縁部コユナデ。外面は胴部下半に縦方向のヘラミガキ、胴部下半は横方向のヘラミガキ。内面は胴部ハケメのち一部ナデ。	淡黄橙	粗砂粒含 脆弱	
71	3-0054	S K35	弥生土器 高杯？	(23) 不明	脚部ほぼ完	外面は口縁部に凹線文、体部はヘラケズリ後ヘラミガキ。内面はハケメ、ナデ。	黄橙	やや粗砂粒含 並	
72	3 0055	S K35	弥生土器 蓋	(20) 不明	1／4	外面はハケメ。内面もハケメ	淡黄橙	密 並	
73	3-0008	S K36	弥生土器 壺	(17) 不明	上半部 1／4	外面は口縁端部に刻目文、頸部はハケメ。内面は口縁部ハケメ、胴部ナデ。	暗黄橙	密 並	スス付着
74	3-0060	S K35	弥生土器 壺	17.2 23.6	1／2	外面は口縁端部に刻目文、胴部はハケメ。内面は口縁部ハケメ、胴部ナデ。	暗褐	密 並	スス付着
75	3-0212 b	S K37	弥生土器 壺	(16) 不明	上半 1／4	外面は口縁端部に刻目文、胴部はハケメ。内面は口縁部ハケメ、胴部ナデ。	にぶい橙	密 並	スス付着
76	3 0212 a	S K37	弥生土器 壺	(20) 不明	上半 1／3	口縁部コユナデ。外面は胴部下半にヘラミガキ。内面は胴部上半にハケメ。	灰褐	密 良	スス付着
77	3 0147	S K39	弥生土器 受口口縁壺	(16) 不明	口縁部 1／10	外面は口縁部刻突文・ハケメ。内面は口縁部ハケメ。	橙	やや粗砂粒含 良	
78	3-0061	S K51	弥生土器 受口口縁壺	(15) 不明	口縁部 1／8	外面は口縁部に凹線2条。	にぶい橙	やや粗砂粒含 並	

第7－3表　出土遺物観察表

遺物番号	整理番号	出土遺構・位置	器種器形	口径(cm)器高(cm)	遺存度	成形・調整技法の特徴等	色調 胎土 焼成	備考
79	3-0202	S K34	弥生土器 広口壺	(16) 29.[illegible]	［／2	外面は口縁部横位に波状文、頸部上下は直線文、最大径部には波状文、下半は一つなぎ状ヘラミガキ、下端部は平ナデ。内面は口縁部に刺突文、頸部はナデ。	橙 密 並 胴部に黒斑	
80	3-0204	S K34	弥生土器 受口口縁壺	6.4 不明	口縁部完存、胴部上半 1/8	外面は口縁部に刺突羽状文、頸部は重鋸文、胴部上半は重鋸文・連続刺突文。	灰白 密 並	
81	3-0172	S K34	弥生土器 受口口縁壺	12.0 36.9	2/3	外面は口縁部に2条の凹線文、胴部上半はハケ後ナデ。胴部下半はヘラケズリ後ヘラミガキ。内面胴部はハケ後ナデ。	淡黄橙 密 良 胴部に黒斑	
82	3-0176	S K34	弥生土器 高杯	17.0 不明	杯部完	外面はヘラケズリ後ヘラミガキ。内面はヘラミガキ。	黄橙 やや粗砂粒含 良 黒斑	
83	3-0205	S K34	弥生土器 蓋	14.9 不明	2／3	円孔（2箇×2ヵ所－4個）。外面はハケメ後ナデ。内面ナデ。	橙 密 並 黒斑	
84	3-0174	S K34	弥生土器 蓋	20.6 6.0	ほぼ完形	外面は口縁部に刺突文、体部はヘラケズリ後ハケメ。内面はナデ。	淡黄橙 やや密砂粒含 良 黒斑	
85	3-0201	S K34	弥生土器 壺	16.4 不明	3／4	外面は口縁端部に刻目文、胴部ハケメ。内面は口縁部ハケメ、胴部ナデ。	にぶい橙 やや粗砂粒含 良	スス付着
86	3-0175	S K34	弥生土器 壺	15.0 不明	上半 1／2	外面は口縁端部に刻目文、胴部ハケメ。内面は口縁部ハケメ、胴部ナデ。	淡黄橙 密 良	スス付着
87	3-0200	S K34	弥生土器 壺	24.3 不明	上半のみ	外面は口縁端部に刻目文、胴部ハケメ。内面は口縁部ハケメ、胴部ナデ。	淡黄橙 密 並	スス付着
88	3-0173	S K34	弥生土器 壺	32.4 不明	上半完存 下半 1/4	外面は口縁端部に刻目文、胴部ハケメ。内面は口縁部ハケメ、胴部ナデ。	にぶい橙 やや粗砂粒含 並 黒斑	スス付着
89	3-0158	S K42	弥生土器 受口口縁壺	5.8 不明	口縁部のみ	口縁部外面はハケメ後波線。	淡黄橙 密 並	
90	3-0161	S K42	弥生土器 壺	不明 不明	胴部上半 1／6	外面は胴部上下に重鋸文・刺突文、最大径部は波状文、下下はヘラミガキ。内面はハケメのちナデ。	淡黄橙 やや粗砂粒含 並	
91	3-0069	S K42	弥生土器 広口壺	(27) 不明	口縁部 1／9	外面は口縁部端面に波状文。内面は口縁部に刺突文・波状文。	橙 やや粗 並	
92	3-0164	S K42	弥生土器 壺	不測 不測	胴部 ／4	外面は胴部ハケメ、上半部に沈線。	淡黄橙 密 並	
93	3-0070	S K42	弥生土器 壺	不測 不測	底部 ／4	内面ハケメ、外面ヘラミガキ。	にぶい赤橙 やや粗砂粒含 並	
94	3-0163	S K42	弥生土器 受口口縁壺	11.8 不測	口縁部～頸部 4／5	外面は口縁部に凹線文、頸部はハケメのちナデ、頸部～下はハケメのちナデ、胴部下半はヘラミガキ。内面は胴部にハケメ。	黄橙 やや粗 並	スス付着
95	3-0155	S K42	弥生土器 鉢	不明 不明	台部 2／3	円孔透かし。外面はハケメ後ヘラミガキ。	淡赤橙 やや粗砂粒含 良	
96	3-0154	S K42	弥生土器 鉢	47.2 不明	上下部 1／4	外面は口縁部に刺突文、体部はハケメ。内面はハケメのちナデ。	黄橙 密 並	
97	3-0162	S K42	弥生土器 甕	14.8 5.6	1／3	口縁部ヨコナデ。体部は内外面ともハケメ。	淡黄橙 やや粗砂粒含 並	
98	3-0068	S K42	弥生土器 壺	14.8 5.0	2／3	口縁部ヨコナデ。体部は内外面ともハケメ。	橙 密砂粒含 脆弱	
99	3-0071	S K42	弥生土器 壺	(17) 不明	口縁部 1／4	外面は口縁端部に刻目文、頸部はハケメ。内面は強面ハケメ。	にぶい橙 密 脆弱	スス付着
100	3-0156	S K42	弥生土器 壺	13.8 不明	二半のみ	外面は口縁端部に刻目文、胴部はハケメ。内面は口縁部にハケメ、胴部はナデ。	淡黄橙 やや粗砂粒含 並	スス付着
101	3-0157	S K42	弥生土器 壺	不明 不明	胴部下部 4／5	外面は胴部にハケメ。内面は胴部ナデ。	灰褐 密 並	スス付着
102	3-0152	S K42	弥生土器 壺	14.8 不明	1／2	外面は口縁端部に刻目文、胴部はハケメ。内面は口縁部にハケメ、胴部はナデ。	褐 密 良	スス付着
103	3-0066	S K42	弥生土器 壺	(19) 不明	口縁部 1／9	外面は口縁端部に刻目文、頸部はハケメ。内面は口縁部にハケメ。	にぶい黄橙 密 脆弱	
104	3-0072	S K42	弥生土器 壺	(19) 不明	口頸部 1／3	外面は口縁端部に刻目文、頸部はハケメ。内面は口縁部にハケメ。	淡黄橙 密 並	スス付着

第７－４表　出土遺物観察表

遺物番号	整理番号	出土遺構・位置	器種 器形	口径(cm) 器高(cm)	遺存度	成形・調整技法の特徴等	色調 胎土 焼成	備考
105	3-0153	S K 42	弥生土器 壺	不明 不明	胴部下半	外面は調部下半にヘラミガキ。内面はハケメ。	橙褐 やや粗砂粒含 並	スス付着
106	3-0159	S K 42	石器 石鏃	長さ2.02 ト 幅 1.5 厚さ 0.3	先端部欠損	凹基無茎鏃	石材はチャート	
107	3-0210	S K 62	弥生土器 壺	不明 不明	頸部から胴部上半	外面は頸部に擬状文、胴部上半は直線文・斜格子文。内面は胴部にハケメ。	黄褐 密 良	
108	3-0211	S K 62	弥生土器 壺	(17) 不明	上半 2／3	外面は口縁端部に刻目文、胴部はハケメ。内面は口縁部にハケメ、胴部はナデ。	にぶい褐 密 良	スス付着
109	3-0192	S K 66	弥生土器 壺	(18) 不明	上半 1／2	外面は口縁端部に刻目文、胴部はハケメ。内面は口縁部にハケメ、胴部はナデ。	赤褐 粗砂粒含 並	スス付着
110	3-0207	S K 67	弥生土器 壺	23.6 不明	上半 2／3	外面は口縁端部に刻目文、胴部はハケメ。内面は胴部ナデ。	にぶい橙 やや粗砂粒含 並	スス付着
111	3-0183	S K 68	弥生土器 広口壺	(15) 不明	口縁部～頸部1/10	外面は頸部に貼付文。内面は口縁部に櫛状突起、頸部にハケメ残存。	にぶい黄橙 粗砂粒含 脆弱	
112	3-0182	S K 68	弥生土器 広口壺	(19) 不明	口頸部 1／8	外面は頸部にハケメのち条痕文。	浅黄橙 やや粗砂粒含 脆弱	
113	3-0186	S K 68	弥生土器 壺	不明 不明	胴部小片	外面胴部に条痕文、是行突帯のも刻目文。	にぶい黄橙 粗砂粒含 並	
114	3-0181	S K 68	弥生土器 壺	不明 不明	胴部 1／2	外面胴部はハケメのちヘラミガキ。内面は上半ナデ、下半ハケメ。	にぶい黄橙 やや粗砂粒含 良	
115	3-0188	S K 68	弥生土器 壺	不明 不明	胴部下部 1／2	外面ヘラケズリ。内面ハケメ。	にぶい黄橙 やや粗砂粒含 良	
116	3-0187	S K 68	弥生土器 壺	不明 不明	胴部下部 1／2	外面ヘラミガキ、ヘラケズリ。内面不明。	にぶい黄橙 粗砂粒含 並	
117	3-0184	S K 68	弥生土器 壺	(20) 不明	口縁部 1／5	口縁部は内外面ともハケメ。	橙 粗砂粒含 並	
118	3-0185	S K 68	弥生土器 壺	(23) 不明	口縁部 1／12	外面は口縁端部に刻目文、胴部はハケメ。内面にハケメ残存。	褐 やや粗砂粒含 並	スス付着
119	3-0144	S K 73	弥生土器 広口壺	(30) 不明	口縁部 1／7	口縁部内外面条痕文。	にぶい橙 やや粗砂粒含 良	
120	3-0145	S K 73	弥生土器 壺	不明 不明	胴部下半 1／6	調整不明。	にぶい黄橙 やや粗砂粒含 並	
121	3-0143	S K 73	弥生土器 壺	(21) 不明	口縁部 1／8	外面は口縁端部に刻目文、胴部は条痕文。内面は口縁部に条痕文、胴部はナデ。	にぶい黄橙 粗砂粒含 並	
122	3-0208 a	S K 75	弥生土器 壺	(24) (22)	1／2	外面は口縁端部に刻目文、胴部ハケメ。内面は口縁部ハケメ、胴部ナデ。	黒灰 粗砂粒含 並	
123	3-0208 b	S K 75	弥生土器 壺	(30) 不明	上半 3／4	外面は、口縁端部に刻目文、7を所つまみあげ、胴部はハケメ。内面は口縁部にハケメ、胴部はナデ。	にぶい黄橙 粗砂粒含 良	
124	3-0194 b	S K 104	弥生土器 壺	不明 不明	胴部下部から底部	外面ヘラミガキ、内面ハケメ残存。	黒褐 粗砂粒含 並	
125	3-0196	S K 104	弥生土器 壺	不明 不明	胴部下部から底部	調整不明。	赤褐 粗砂粒含 良	
126	3-0195	S K 104	弥生土器 壺	(23) 不明	上半 1／4	外面は胴部ハケメ。内面は口縁部にハケメ、胴部はナデ。	赤褐 粗砂粒含 良	スス付着
127	3-0194 a	S K 104	弥生土器 壺	29.4 不明	1／4	外面は胴部にハケメ。内面はナデ。	暗黄褐 密 良	スス付着
128	3-0045	遺物包含層	弥生土器 広口壺	(22) 不明	口頸部 1／2	外面は口縁部に条痕文、頸部はハケメのち条痕文。内面はナデ。	淡灰褐 やや粗砂粒含 並	
129	3-0116	S D98 (混入)	弥生土器 広口壺	(27) 不明	口縁部 1／16	外面は口縁部に直線文・条痕文。	にぶい黄橙 やや粗砂粒含 良	
130	3-0115	S D98 (混入)	弥生土器 壺	不明 不明	頸部 1／4	外面は頸部にハケメをナデ消したのち、平板状管による横線2条、斜格子文、刺突文。	にぶい黄橙 密 並	

第7－5表　出土遺物観察表

遺物番号	整理番号	出土遺構・位置	器種器形	口径(cm)器高(cm)	遺存度	成形・調整技法の特徴等	色調 胎土 焼成	備考
131	3-0167	不明	弥生土器 壺	不明 不明	胴部 1／3	外面は胴部全面にヘラミガキを施したのち、胴部上半に直線文。内面はナデ。	褐灰 やや粗砂粒含 良	
132	3-0213	E29 Pit 3	弥生土器 壺	10.6 不明	上半のみ	調整不明。	にぶい黄橙 やや粗 良	
133	3-0022	H36 遺物包含層	弥生土器 鉢	(24) 不明	上半部 1／8	口縁部ヨコナデ。外面は口縁端部に刻目文、体部はハケメ。内面は体部にナデ。	橙 密 良	
134	3-0013	B24 遺物包含層	弥生土器 壺	(14) 不明	口頸部 1／4	外面は口縁端部に刻目文、頸部はハケメのちヘラケズリ。内面は頸部にナデ。	にぶい橙 やや粗砂粒含 良	
135	3-0114	C41 溝（その他の遺構）	弥生土器 壺	(24) 不明	口縁部 1／4	外面は口縁端部に刻目文、頸部はハケメ。内面は口縁端部に刻目文。	にぶい橙 粗砂粒含 良	スス付着
136	3-0209	I41 遺物包含層	弥生土器 壺	(90) 不明	上半 1／3	外面は口縁端部に刻目文、頸部はハケメ。内面は口縁部にハケメ、頸部はナデ。	灰黄 粗砂粒含 良	スス付着
137	3-0032	C33 遺物包含層	弥生土器 壺	不明 不明	口縁部小片	外面は口縁端部に沈線。内面は口縁部に凹線文。	浅橙 粗砂粒含 良	
138	3-0005	I18 遺物包含層	弥生土器 壺	不明 不明	頸部小片	外面は口縁端部に貝殻による刻文・凹線文、コ縁部はナデ。内面は円形の竹管文。	褐灰 やや粗砂粒含 良	
139	3-0001	I37 遺物包含層	弥生土器 壺	不明 不明	口縁部小片	口縁部ヨコナデ。外面は朱炎文。	橙 粗砂粒含 良	
140	3-0014	B37 遺物包含層	弥生土器	不明 不明	口縁部小片	外面は口縁部にハケメ。内面は波状文。	黄橙 やや粗砂粒含 良	
141	3-0048	D32 遺物包含層	弥生土器	不明 不明	口縁部小片	外面は口縁部にハケメのち沈線。内面はハケメ。	にぶい橙 やや粗砂粒含 良	
142	3-0034	F42 遺物包含層	弥生土器 壺	不明 不明	頸部小片	外面は頸部に直線文、竹管文、櫛状文。	橙 粗砂粒含 良	
143	3-0133	S X 8 （混入）	弥生土器 壺	不明 不明	頸部小片	外面沈線文。	橙 やや粗砂粒含 良	
144	3-0117	表面採集	弥生土器	不明 不明	頸部小片	外面は頸部にハケメのち斜格子文、頸縦文。	黄橙 密 良	
145	3-0052	表面採集	弥生土器 鉢	不明 不明	口縁部小片	外面は櫛状文、波状文、ヘラミガキ。内面はナデ。	浅黄橙 密 焼酒・黒斑	
146	3-0214	S K 42	弥生土器 土製円盤	径 3.6 厚さ 0.7 ～4.2	完形	弥生土器片を加工。	橙 良	
147	3-0219	S E 105 （混入）	石器 スクレーパー	長さ 8.3 幅 5.5 厚さ 0.9	完形		石材はサヌカイト	
148	3-0222	E 42 遺物包含層	石器 石斧	残10.0以上 幅 4.8 厚 3.6	欠損		材質は玄武岩か	
149	3-0084	S X 2 北調査	土師器 小型丸底壺	9.0 9.1	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。外面は胴部ナデ。内面は胴部ハケメのちナデ。	褐 やや粗砂粒含 並	
150	3-0089	S X 5 北調査	須恵器 甕	(14) 1.7	1／2	外面はカクロケズリ。内面はロクロナデ。	灰 やや粗砂粒含 並	
151	3-0090	S X 5 北調査	陶器 灰釉皿	不明 不明	底部 1／4	釉付高台。外面はロクロケズリ。内面に施釉。	灰白 密 良	
152	3-0082	S B 6	土師器 椀	14.9 4.8	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	橙 密 軟質	『ニュース№16,20』
153	3-0048	S B 6	土師器 杯	(18) 3.1	体部 1／6	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	橙 密 良	
154	3-0051	S B 6	土師器 皿	(17) 2.4	1／2	口縁部ヨコナデ。外面は底部指押さえ、未調整。内面ナデ。	赤橙 密 良	『ニュース№16,8』
155	3-0050	S B 6	土師器 皿	15.6 2.8	2／3	コ縁部ヨコナデ。外面は底部ヘラケズリ。内面ナデ。	橙 密 良	『ニュース№16,8』
156	3-0049	S B 6	土師器 高杯	(21) 不明	杯部 1／4	口縁部ヨコナデ。外面は杯部ハケメ。内面ナデ。	橙 やや粗砂粒含 並	

第７－６表　出土遺物観察表

遺物番号	整理番号	出土遺構・位置	器種器形	口径(cm) 器高(cm)	遺存度	成形・調整技法の特徴等	色調 胎土 焼成	備考
157	3-0853	SB6	土師器 壺	23 不明	上半のみ	長胴壺。口縁部はコナデ。外面は胴部ハケメ。内面は胴部上半にハケメ、下半はナデ。	浅黄橙 密 良	スス付着
158	3-0898	SB77 カマド	土師器 壺	(12) 不明	1/2	口縁部ヨコナデ。外面は胴部・底部ハケメ。内面は胴部・底部ヘラケズリ。	橙 密 良	
159	3-0874	SD88 (P56 P3)	土師器 壺	(18) 不明	上半	口縁部ヨコナデ。外面は胴部ハケメ。内面ナデ。	にぶい黄橙 やや粗 並	スス付着
160	3-0896	SB90 (N38 P1)	土師器 杯	(13) 3.1	1/4	口縁部ヨコナデ。外面は底部指押さえ、未調整。内面ナデ。	橙 やや粗 良	
161	3-0891	SB90 (N38 P1)	土師器 杯	(15) 3.4	1/3	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	橙 密 等	
162	3-0870	SB90 (N38 P1)	土師器 皿	(18) 2.0	1/10	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	にぶい橙 密 等	
163	3-0872	SB90 (N38 P1)	土師器 皿	(17) 1.9	1/4	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	橙 密 良	
164	3-0888	SE7	土師器 壺	(15) 不明	上半 1/8	口縁部ヨコナデ。外面は胴部ハケメ。内面は胴部ナデ。	にぶい黄橙 密 良	スス付着
165	3-0839	SE10	土師器 杯	(13) 3.0	1/6	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	にぶい橙 やや粗 良	
166	3-0837	SE10	土師器 杯	(15) 2.5	1/12	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	橙 やや根 等	
167	3-0836	SE10	瓦 平瓦	長さ不明 幅 不明 厚さ 2.4	小片	一枚造り。凹手糸切り痕・布目痕・圧痕、凸面縄叩目痕、側面ヘラケズリ・布目痕残存、端面ヘラケズリ。	淡黄 粗砂粒含	
168	3-0840	SE11	土師器 杯	(15) 3.8	体部 1/12	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	にぶい橙 やや粗 並	
169	3-0843	SE11	土師器 杯	14.0 3.1	4/5	口縁部ヨコナデ。外面は指押さえ、未調整。内面ナデ。	浅黄橙 やや粗 並	
170	3-0842	SE11	土師器 杯	14.2 3.0	3/5	口縁部ヨコナデ。外面は指押さえ、未調整。内面ナデ。	浅黄橙 やや粗 並	
171	3-0841	SE11	陶器 灰釉陶	(13) 4.1	1/12	貼付高台。外面下半ロクロケズリ、上半ロクロナデ。内面に釉。	灰白 やや密 良	
172	3-0886	SE105	土師器 杯	(14) 2.8	1/3	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	赤褐色 良 並	『鎌倉IV』(1) 内面にスス付着
173	3-0887	SE105	土師器 壺	15.9 13.7	完形	口縁部ヨコナデ。外面は胴部ハケメ、底部ヘラケズリ。内面は胴部ハケメ、底部ヘラケズリ。	褐色 やや粗砂粒含 並	胴部外面にヘラ記号1本。スス付着。『鎌倉IV』(2)
174	3-0899	SE105	土製品 土錘	残長 4.1 径 1.0 孔径 0.3	完形		黄橙 土師質 やや粗 並	
175	3-0884	SF69	土師器 ミニチュア	不明 不明	下半完形	てずくね。外面底部ナデ。	にぶい褐 やや粗砂粒含 良	
176	3-0882	SF69	土師器 杯	(13) 4.1	1/6	粘土つなぎ痕。口縁部ヨコナデ。外面は指押さえ、未調整。内面ナデ。	橙 密 等	
177	3-0881	SF69	土師器 皿	(21) 2.5	1/5	口縁部ヨコナデ。外面は底部ヘラケズリ。内面に暗文。	橙 密 良	
178	3-0883	SF69	土師器 皿	(21) 2.4	1/10	口縁部ヨコナデ。外面は底部ヘラケズリ。内面に暗文。	にぶい赤褐 密 並	
179	3-0885	SF69	土師器 壺	(23) 不明	上下接不定	長胴壺。口縁部ヨコナデ。外面は胴部ハケメ。内面は胴部上半ハケメ、下半ヘラケズリ。	にぶい橙 やや粗 並	
180	3-0845	SK31	土師器 皿	(17) 2.5	略ほ完形	口縁部ヨコナデ。外面は体部ヘラミガキ、底部ヘラケズリ。内面に暗文。	橙 やや粗砂粒含 並	
181	3-0847	SK31	土師器 壺	(24) 不明	上半小片	口縁部ヨコナデ。外面は胴部ハケメ。内面は胴部ハケメ。	橙 密 等	スス付着
182	3-0844	SK31	須恵器 杯	(12) 3.9	1/2	貼付高台。体部ロクロナデ。	灰白 やや粗砂粒含 硬質	

第7－7表　出土遺物観察表

遺物番号	整理番号	出土遺構・位置	器種器形	口径(cm)器高(cm)	遺存度	成形・調整技法の特徴等	色調	胎土	焼成	備考
183	3-0846	S K31	系無器壷	不明 小明	底部完形	貼付高台。体部ロクロナデ。	灰	やや粗	砂粒含 良	
184	3-0833	S K32	土師器杯	(16) 4.2	口縁部 1/3	口縁部ヨコナデ。外面は体部ヘラミガキ。内面はナデ。	橙	やや粗	良	
185	3-0832	S K32	土師器皿	(17) 2.4	1/8	口縁部ヨコナデ。外面は底部指押さえ、未調整。内面ナデ。	淡橙	密	良	
186	3-0835	S K32	土師器皿	(19) 2.0	体部 1/8	口縁部ヨコナデ。外面底部の調整は不明。	淡橙	やや粗	良	
187	3-0876	S K64	土師器鍋	(17) 不明	上半 1/5	口縁部ヨコナデ。外面は胴部ハケメ。内面はナデ。	赤褐	やや粗	良	
188	3-0808	G36 遺物包含層	土師器鍋	(12) 2.6	1/3	口縁部ヨコナデ。外面は底部指押さえ。内面ナデ。	赤褐	密	良	
189	3-0837	G36 遺物包含層	土師器鍋	12.7 3.5	完形	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	淡褐	砂粒含	並	
190	3-0897	G36 遺物包含層	土師器鍋	(13) 3.7	1/4	口縁部ヨコナデ。外面は底部指押さえ、ヘラケズリ。内面ナデ。	明褐	やや粗	砂粒含 良	
191	3-0898	E38 Pit6	二重器縁	7.5 5.3	略形完形	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	淡黄褐	密	良	
192	3-0877	G40 遺物包含層	土師器杯	(12) 3.1	1/4	口縁部ヨコナデ。外面は底部ヘラケズリ。	橙	やや粗	砂粒含 良	
193	3-0817	E38 遺物包含層	土師器杯	(13) 3.3	1/3	口縁部ヨコナデ。外面は底部指押さえ、未調整。内面ナデ。	橙	粗	砂粒含 良	
194	3-0867	試掘 遺物包含層	土師器杯	(13) 3.2	2/3	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	赤褐	やや粗	良	
195	3-0806	F36 遺物包含層	土師器杯	(14) 2.9	1/2	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	淡褐	砂粒含	良	
196	3-0865	試掘 遺物包含層	土師器杯	(15) 3.7	1/3	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	淡褐	やや粗	良	
197	3-0878	G40 遺物包含層	土師器杯	(13) 3.2	1/3	短十つた手痕。口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	橙	やや粗	砂粒含 並	底部外面にヘラ記号「×」
198	3-0899	試掘 遺物包含層	土師器杯	(13) 3.6	1/3	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	にぶい黄橙	やや粗	砂粒含 良	底部外面に墨書「会」または「令」
199	3-0892	K38 Pit1	土師器杯	(14) 3.6	1/3	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	淡赤褐	砂粒含	良	底部外面に墨書「何人」または「何人」または「何」または「何」
200	3-0816	J 20 遺物包含層	土師器杯	(16) 3.0	1/4	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	にぶい橙	粗	並	
201	3-0818	D27 遺物包含層	土師器杯	(16) 3.3	1/4	口縁部ヨコナデ。外面は底部ヘラケズリ。内面暗文（体部斜行暗文、底部螺旋暗文）。	橙	密	良	
202	3-0824	E38 遺物包含層	土師器皿	(18) 2.0	1/4	口縁部ヨコナデ。外面は底部ヘラケズリ。内面ナデ。	橙	密	良	
203	3-0814	E30 遺物包含層	土師器皿	(16) 2.0	1/8	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	にぶい黄橙	やや粗	良	
204	3-0819	E34 遺物包含層	土師器皿	(17) 2.0	1/4	口縁部ヨコナデ。外面は底部未調整。内面ナデ。	淡黄橙	密	良	
205	3-0809	H24 遺物包含層	土師器ロクロ製小皿	6.2 1.5	略形完形	体部ロクロナデ。外面底部糸切り痕。	にぶい黄橙	やや粗	良	
206	3-0822	J 26	土師器遺物包含層	8.4 8.7	2/3	口縁部ヨコナデ。外面は胴部上半ヘラミガキ、下半ヘラケズリ。底部ヘラミガキ。内面は胴部上半ハケメ、下半ナデ。	橙	密	良	
207	3-0831	F33 遺物包含層	土師器壺	(17) 不明	上半 1/3	口縁部ヨコナデ。外面は胴部ハケメ。内面は胴部ヘラケズ。	にぶい黄橙	やや粗	砂粒含 並	
208	3-0866	F33 遺物包含層	土師器壺	(24) 10.6	1/2	口縁部ヨコナデ。外面は胴部上半ハケメ、下半～底部ヘラケズリ。内面は胴部ナデ。	橙	やや粗	並	スス付着

第7－8表　出土遺物観察表

遺物番号	整理番号	出土遺構・位置	器種器形	口径(cm)器高(cm)	遺存度	成形・調整技法の特徴等	色調 胎土 焼成	備考
209	3-0875	K25 遺物包含層	土師器 甕	(18) (14)	1／4	口縁部ヨコナデ。外面は頸部上半ハケメ、下半～底部ヘラケズリ。内面は胴部上半ハケメ、下半～底部ヘラケズリ。	暗赤褐 やや粗 並	ススイ付着
210	3-0829	G34 遺物包含層	土師器 甕	(24) 不明	上半 1／5	長頸壺。口縁部ヨコナデ。外面は胴部ハケメ。内面は胴部ナデ。	浅黄橙 やや粗 砂粒多含 良	ススイ付着
211	3-0821	C29 遺物包含層	土師器 甕	(21)	口頸部 1／2	口縁部ヨコナデ。外面は頸部指押さえ。内面は胴部上半ハケメ。	浅黄橙 粗砂粒含 並	ススイ付着
212	3-0826	H32 遺物包含層	須恵器 蓋	4.6 2.5	2／3	つまみ付き。内面にかえり。ロクロナデ。天井部はヘラケズリ。内面に一方向ナデ。	明オリーブ灰 やや粗砂粒含 良	鉄釉
213	3-0825	C37 遺物包含層	須恵器 坏	(11) 3.4	1／3	体部ロクロナデ、底部ヘラキリ未調整。内面一方向ナデ。	灰白 やや粗砂粒含 並	
214	3-0805	F27 遺物包含層	瓦質器 坏	(11) 3.4	1／2	体部ロクロナデ、底部ヘラキリ未調整。内面一方向ナデ。	淡灰 やや粗 並	
215	3-0811	I35 遺物包含層	陶器 底部破	不明 不明	下半 1／3	貼付高台。ロクロナデ。内面施釉（刷毛塗り）。	灰白 やや粗 良	
216	3-0900	S D100	硬 質陶器 黒色質	不明 不明	二面 1／8		灰白 密 堅	
217	3-0858	S D96	陶器 山茶碗	不明 不明	底部のみ	貼付高台。ロクロナデ。底部糸切り痕。物数痕。	灰黄 粗 並	
218	3-0857	S D99	陶器 山茶碗	不明 不明	底部のみ	貼付高台。ロクロナデ。底部糸切り痕。鳴滝痕。	灰白 粗砂粒含 堅 同然釉	
219	3-0859	S D99	陶器 山茶碗	不明 不明	底部 1／4	貼付高台。ロクロナデ。物数痕。	灰黄 粗砂粒含 並	
220	3-0810	F27 遺物包含層	陶器 甕	8.2 2.0	1／2	ロクロナデ。底部糸切り痕。	灰白 良 良	
221	3-0856	S D98	陶器 鉢	(35) 不明	口縁部 1／8	ナデ。	橙 粗砂粒含 堅	
222	3-0851	S D98	陶器 大甕	(12) 不明	口縁部 1／12	ロクロナデ、鉄釉。	灰白 密 良	
223	3-0854	S D97	瓦 軒丸瓦	瓦当径(16) 内区径(8) 瓦当厚 2.3	瓦当部 1／4	内区巴文、外区内縁珠文（推定16個）、外縁素文。瓦当裏面ナデ。	灰白 粗 精密	
224	3-0855	S D99	石製品 滑石製 空気孔	長さ 16 空孔直径10 実際直径11	完形			
225	3-0217	F42 遺物包含層	石製品 硬石	長さ8以上 幅 5.7 厚さ 0.6	欠損			
226	3-0216	試掘 A－3	白製品 滑石	長さ 9.5 幅 3.8 厚さ 2.0	完形			
227	3-0215	F35 遺物包含層	石製品 紡錘	長さ 16 幅 13 厚さ 5	欠損			
228	3-0220	S K59	石製品 石錘	長さ5.7以上 幅 2.7 厚さ 1.0	小片		石材はサヌカイト	写真のみ掲載

第７－９表　出土遺物観察表

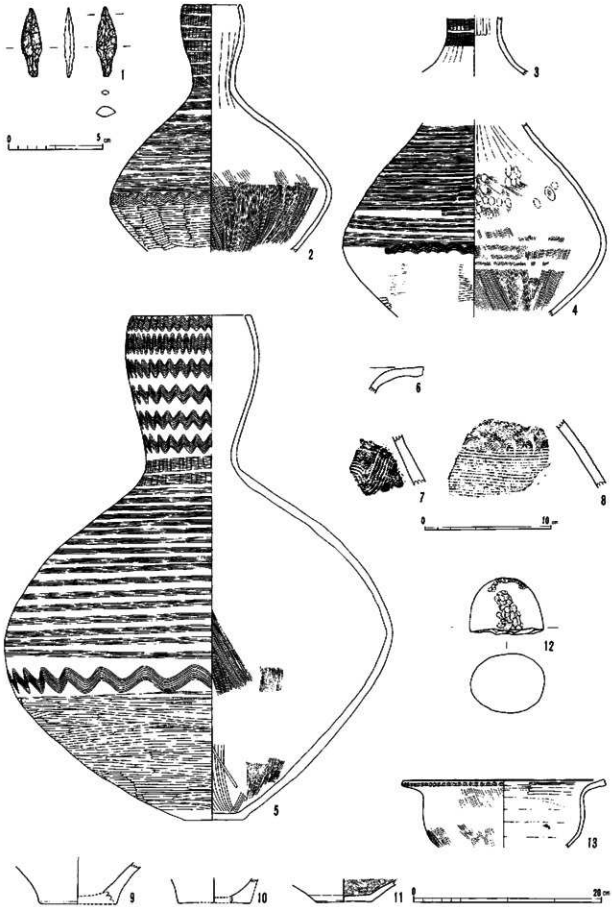
＊既に公表している遺物については、備考欄にその文献名と遺物番号を記した。なお文献名は下記のとおり略記した。

『きんき道調査ニュース№16』（三重県教育委員会・1988）・『ニュース№16』

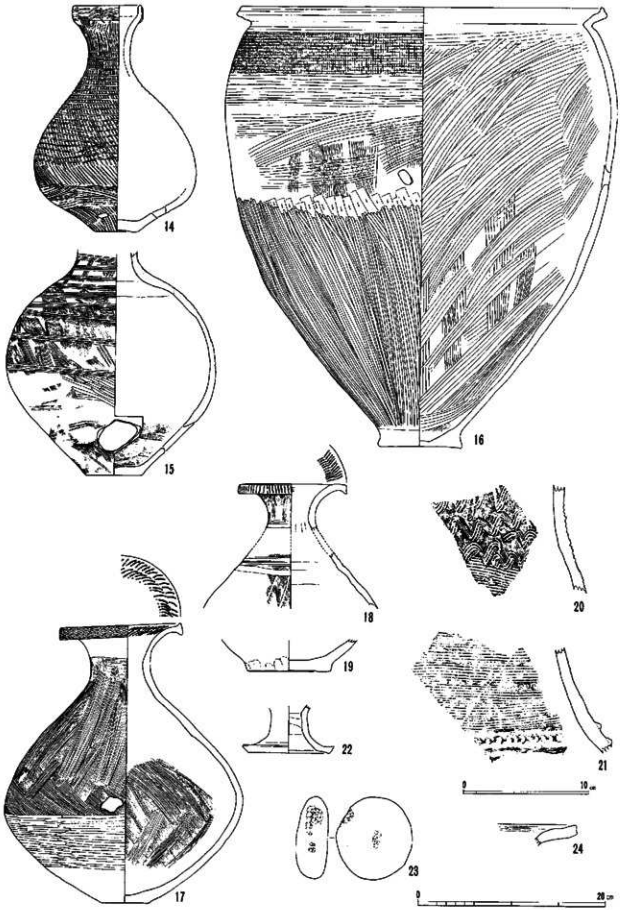
『きんき道調査ニュース№21』（三重県教育委員会・1988）→『ニュース№21』

『近畿自動車道（久居～勢和間）埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ』（三重県教育委員会・1988）・『概報Ⅳ』

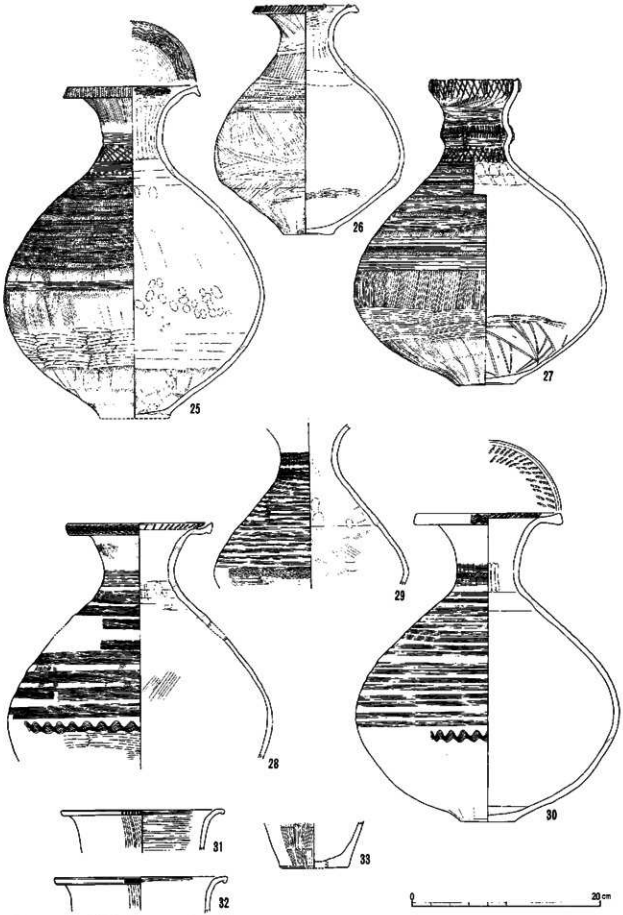
『近畿自動車道（久居～勢和間）埋蔵文化財発掘調査概報Ⅴ』（三重県教育委員会・1989）→『概報Ⅴ』



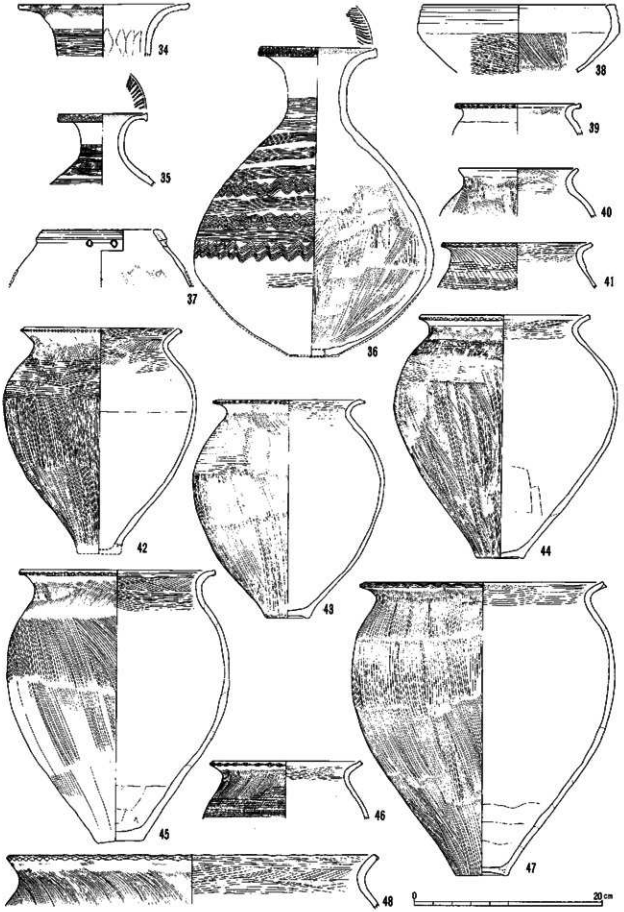
第22図　出土遺物実測図（１は１：２、８は１：３、他は１：４）１はＳＢ４出土、２～13はＳＸ１出土



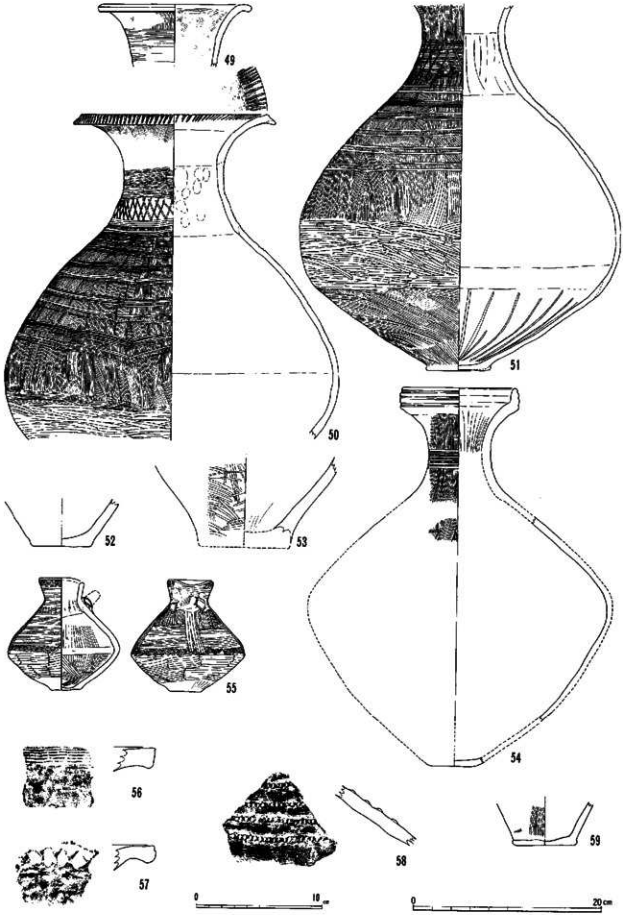
第23図　出土遺物実測図（20・21は１：３、他は１：４）14～16はＳＸ１出土、17～24はＳＸ２出土



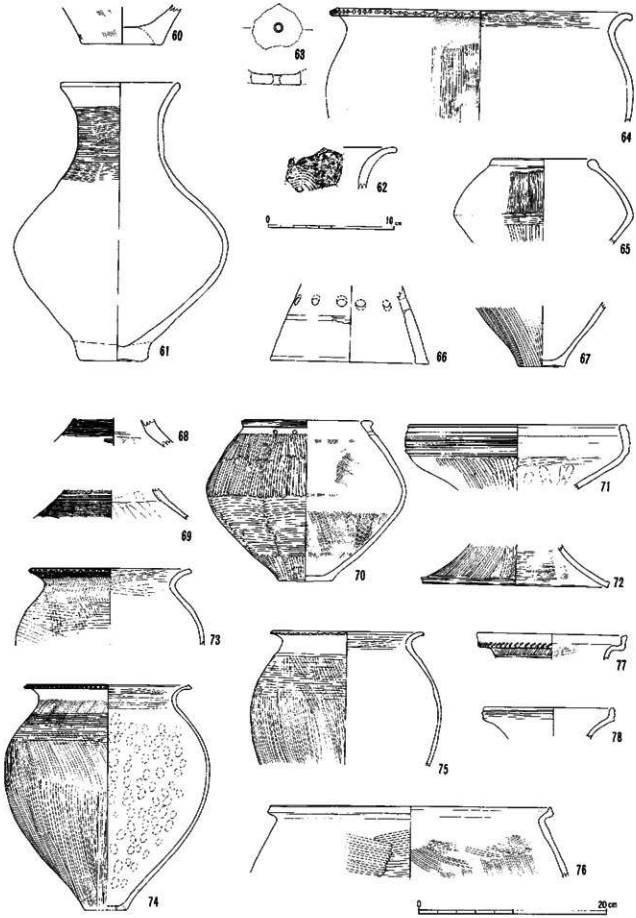
第24図　出土遺物実測図（1：4）ＳＸ２出土



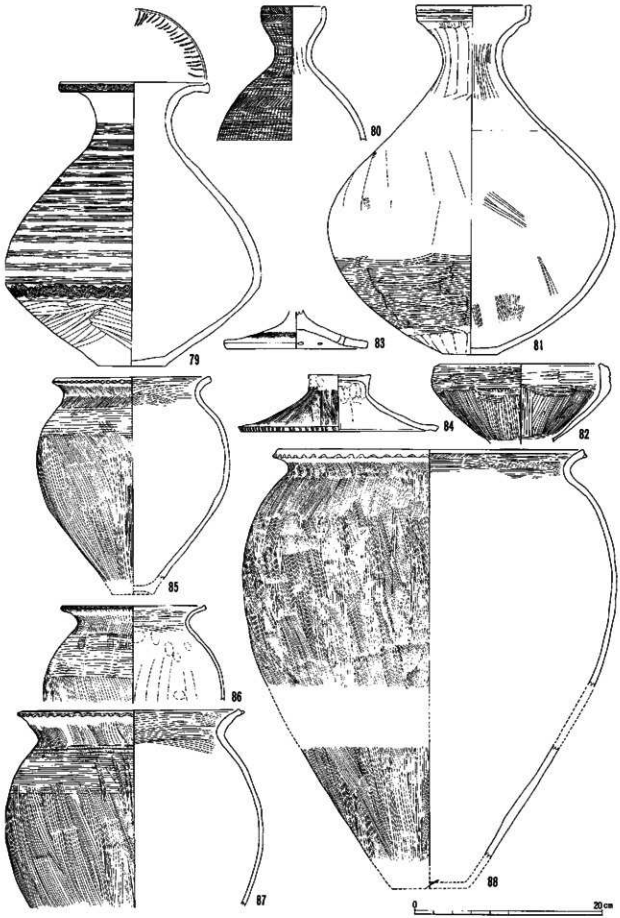
第25図　出土遺物実測図（1：4）ＳＫ３出土



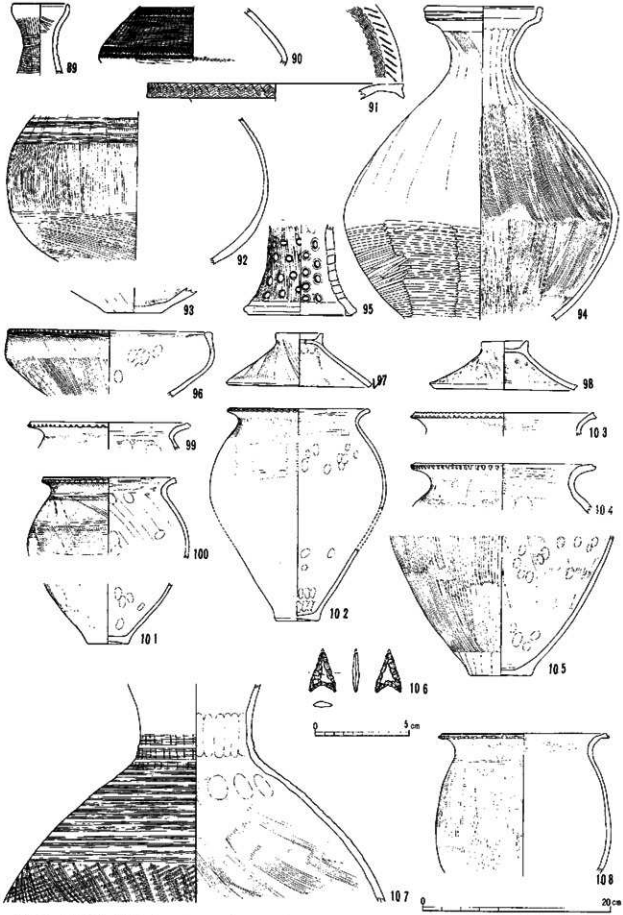
第26図　出土遺物実測図（56～58は１：３、48～55・59は１：４）ＳＫ13出土



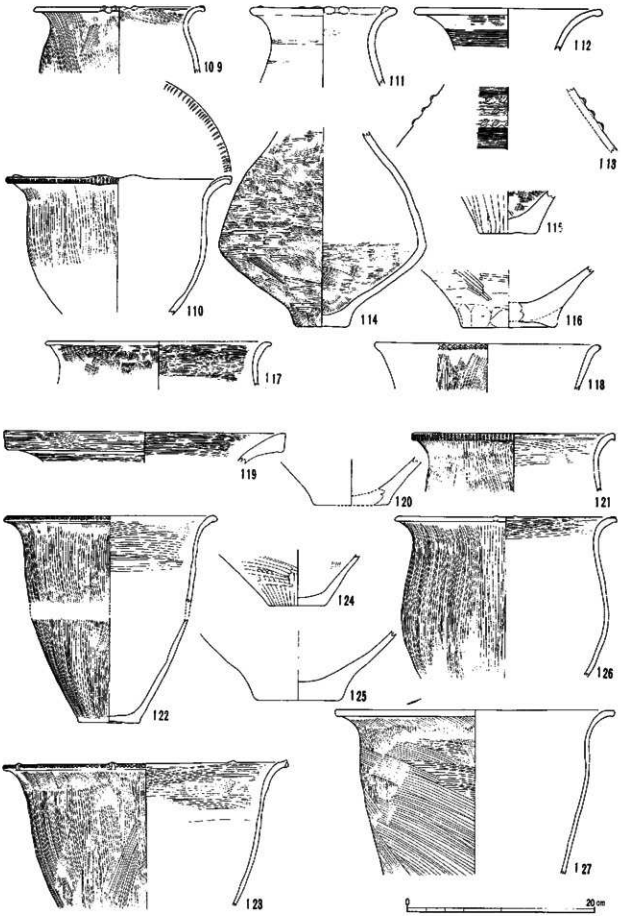
第27図　出土遺物実測図（62は１：２、他は１：４） 60はＳＫ12出土、61はＳＫ15出土、62はＳＫ20出土、63・64はＳＫ23出土、65～67はＳＫ33出土、68～74はＳＫ35出土、75・76はＳＫ37出土、77はＳＫ39出土、78はＳＫ51出土



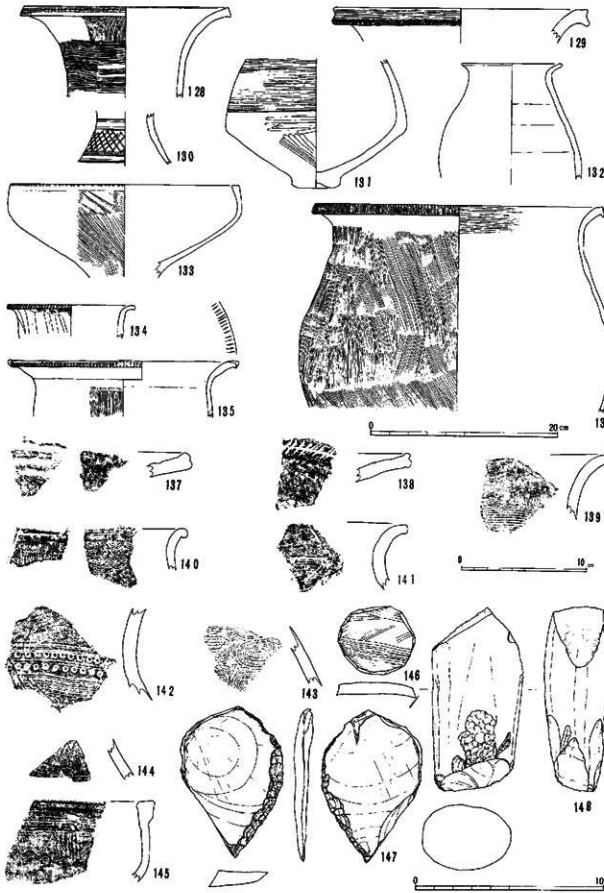
第28図　出土遺物実測図（1：4）ＳＫ34出土



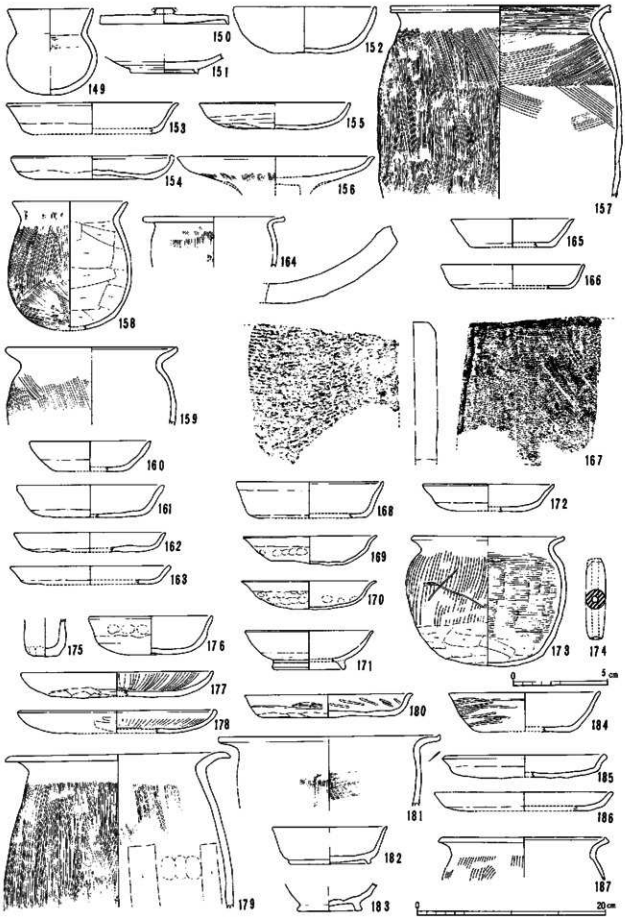
第29図　出土遺物実測図（106は１：２、他は１：４）89～106はＳＫ42出土、107・108はＳＫ62出土



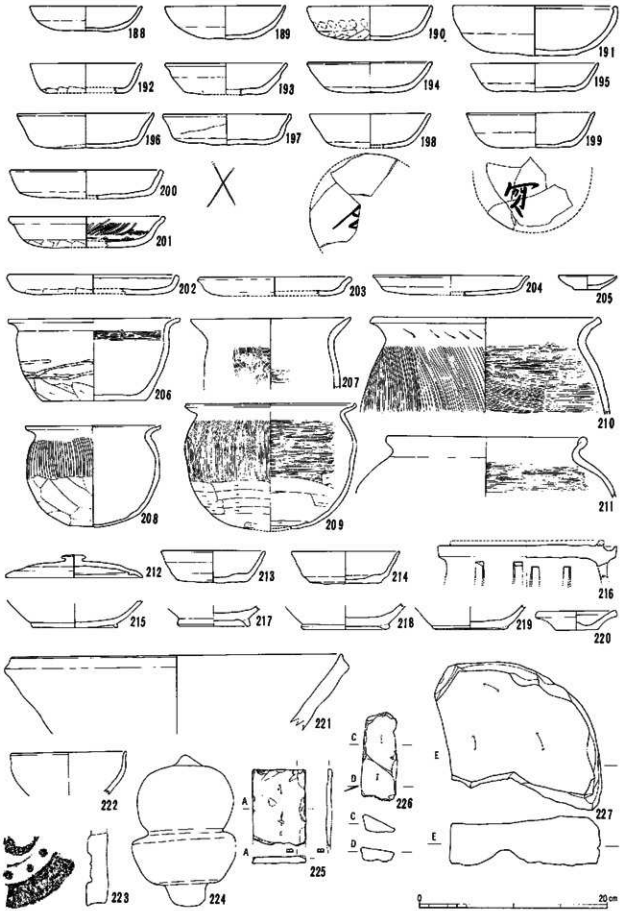
第30図　出土遺物実測図（1：4）109はＳＫ66出土、110はＳＫ67出土、111～118はＳＫ68出土、119～121はＳＫ73出土、122・123は出土ＳＫ75出土、124～127はＳＫ104出土



第31図　出土遺物実測図（128～136は１：４、137～145は１：３、146～148は１：２）遺物包含層出土



第32図　出土遺物実測図（174は１：２、他は１：４）147はＳＸ２出土、150・151はＳＸ５出土、152～157はＳＢ36出土、158はＳＢ77出土、159はＳＢ88出土、160～163はＳＢ90出土、164はＳＥ７出土、165～167はＳＥ10出土、168～171はＳＦ11出土、172～174はＳＥ105出土、175～179はＳＦ69出土、180～183はＳＫ31出土、184～186はＳＫ32出土、187はＳＫ64出土



第33図　出土遺物実測図（1：4）188～215・220は遺物包含層等出土、216はＳＤ100出土、217はＳＤ96出土、218・219はＳＤ99出土、221・222はＳＤ98出土、223はＳＤ97出土

（付　編）

鳥居本遺跡発掘調査にともなう土壌分析調査（カルシウム，リン）の結果について

三重県農業技術センター

広　瀬　和　久・原　　正　之

鳥居本遺跡では弥生時代の方形周溝墓や土坑墓の可能性をもつ土坑が発見されている。これらの遺構において遺体腐蝕の有無を化学的な方法で検討するため、土壌中のリンとカルシウムの分析を行った。

分析結果から試料（土壌）中に、人骨等が含有されているかどうかを判断するためには、Ca（カルシウム）とP（リン）の分析値だけでは不十分である。すなわち、この遺跡元来の土壌のCaとPの自然賦存量を求める必要がある。

今回、20点の基準土を採取しCaとPを分析した結果、Caは105～455ppm（平均値211ppm、標準偏差値98ppm）、Pは192～450ppm（273±67ppm）の範囲であった。基準土の値をそれぞれの試料の近傍から採取し、自然賦存量として用いる方法もあるが、バラツキが大きく問題がある。むしろ遺跡全体を通じて一つの自然賦存量の値を用いた方が、適正ではないかと考えられた。

そこで、この遺跡の自然賦存量として、基準土の平均値に標準偏差値の２倍の値を加えた値を用いることにした。この値は統計学的には全体の95％に相当し、ほぼ妥当ではないかと考えられる。

すなわち、Caは211＋（98×２）＝407ppm、Pは273＋（67×２）＝407ppmとなり、偶然ではあるが両元素とも407ppmになり、この値を本遺跡の自然賦存量にした試料の分析値から自然賦存量の値を差し引いた数値が正の値の試料については、人骨等が含有されているものと判断した。

この結果、分析した試料43点のうちこの要件に該当したもの、すなわちCa、Pとも濃度の高く人骨等の含有されている可能性のある試料は28点であった。またPのみ濃度が高く判然としない試料は13点、両元素とも濃度が低く人骨等の含有が認められない試料は２点であった。

なおP濃度は高いがCa濃度が低い試料については、人骨等の含有は判然としない。しかし一般にはCaはPより雨水等により土壌から溶出されやすく、今回のようにCaは溶出されてPのみが残留することも有り得る。又、Pは肥料として土壌に施用されることもあり、P濃度が高いことのみで、人骨等が含有されているものと判断することは危険であり、全体からみて総合的に判断することが望ましい。

今回の13点の試料についても分析値だけでは判断できないが、P濃度がある程度高く、肥料等を施用した形跡がなく、雨水等によりCaが溶出されやすい地点については、人骨等が含有されている可能性が高いものと考えられる。

（参考）

人骨中のカルシウムとリン濃度（数値は新鮮組織に対する％）		
1	カルシウム	25.6％
2	リン	12.3％
3	窒素	4.4％
4	炭酸塩	4.0％
5	その他	

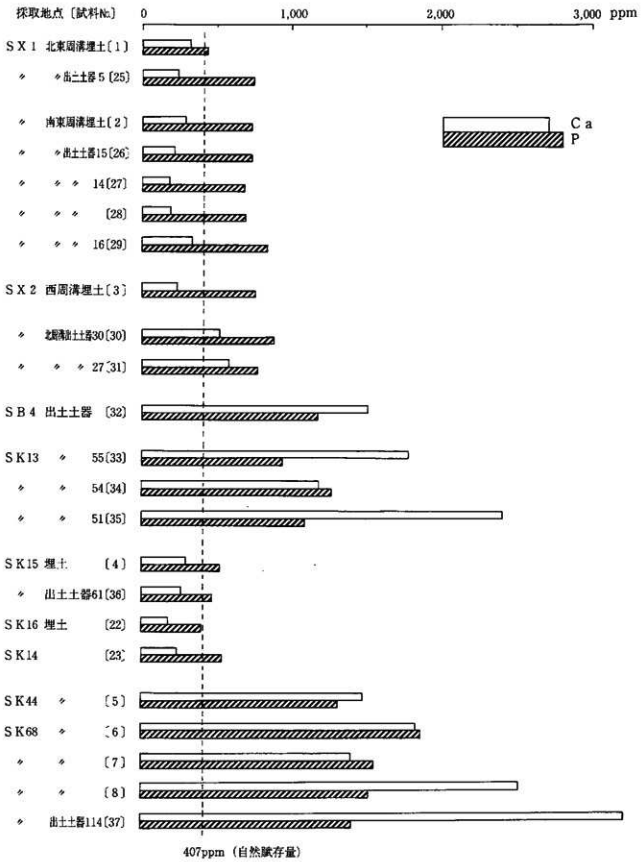
（「化学大辞典」共立出版　より）

(単位：風乾土当りのppm)

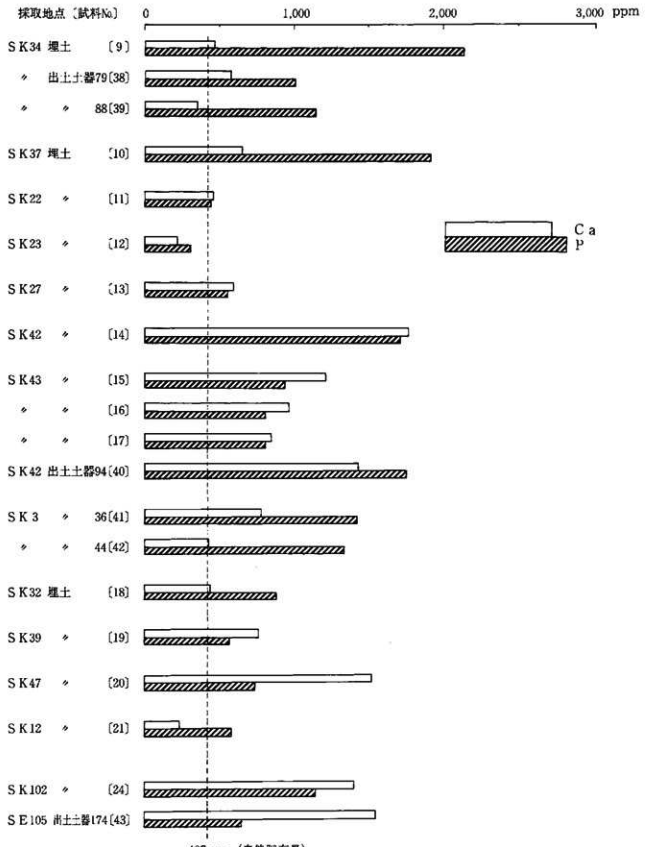
試料名	分析値 No.	分析値 Ca	分析値 P	分析値−自然賦存量 Ca	分析値−自然賦存量 P	基準土 No.	基準土 分析値 Ca	基準土 分析値 P
SX1 北東周溝埋土	1	317	425	−	18	1	147	244
〃 〃 出土土器5	25	236	739	−	332			
〃 南東周溝埋土	2	287	717	−	310	2	259	282
〃 〃 出土土器15	26	205	730	−	323			
〃 〃 〃 14	27	179	686	−	279			
〃 〃 〃	28	190	692	−	285			
〃 〃 〃 16	29	330	829	−	422			
SX2 西周溝埋土	3	236	755	−	348	3	200	242
〃 北周溝出土土器30	30	505	876	98	469	4	165	201
〃 〃 〃 27	31	571	767	164	360			
SB4 出土土器	32	1504	1165	1097	758	5	271	232
SK13 〃 55	33	1760	926	1353	519	6	455	251
〃 〃 54	34	1176	1259	769	852			
〃 〃 51	35	2386	1087	1979	680			
SK15 埋土	4	292	515	−	108	7	105	266
〃 出土土器61	36	255	459	−	52			
SK16 埋土	22	178	397	−	−			
SK14 〃	23	229	534	−	127			
SK44 〃	5	1474	1243	1067	836	8	319	450
SK68 〃	6	1818	1849	1411	1442			
〃 〃	7	1388	1544	981	1137			
〃 〃	8	2492	1498	2085	1091			
〃 出土土器 114	37	3180	1380	2773	973			
SK34 埋土	9	463	2136	56	1729	9	107	217
〃 出土土器 79	38	574	1003	167	596			
〃 〃 88	39	349	1137	−	730			
SK37 埋土	10	649	1908	242	1501	10	198	238
SK22 〃	11	456	444	49	37	11	138	270
SK23 〃	12	221	304	−	−	12	120	244
SK27 〃	13	590	565	183	158	13	267	217
SK42 〃	14	1754	1700	1347	1293	14	386	270
SK43 〃	15	1202	935	795	528	15	160	266
〃 〃	16	961	804	554	397			
〃 〃	17	838	804	431	397			
SK42 出土土器 94	40	1414	1741	1007	1334			
SK3 〃 36	41	786	1414	379	1007	16	130	422
〃 〃 44	42	436	1327	29	920			
SK32 埋土	18	449	873	42	466	17	229	325
SK39 〃	19	755	559	348	152	18	124	301
SK47 〃	20	1512	733	1105	326	19	297	332
SK12 〃	21	231	571	−	164	20	147	192
SK102 〃	24	1390	1125	983	718	−	−	−
SE105 (平安時代)出土土器174	43	1526	643	1119	236			
	(43点)	878	972	526	568	(20点)	211	273

(注) 自然賦存量：Ca，Pとも407ppmとした。

第8表　土壌分析結果一覧表



第34図　土壌分析結果(1)



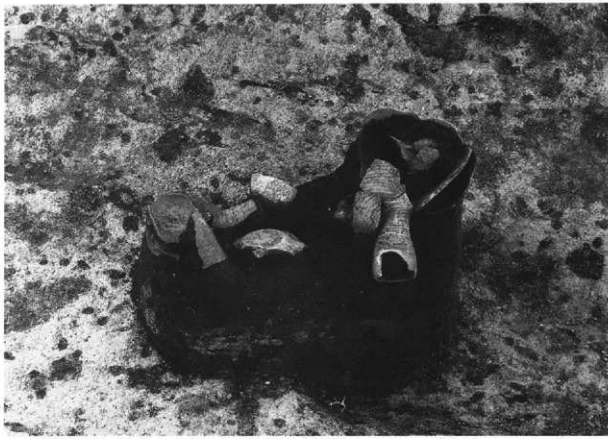
第35図　土壌分析結果(2)

調査区全景

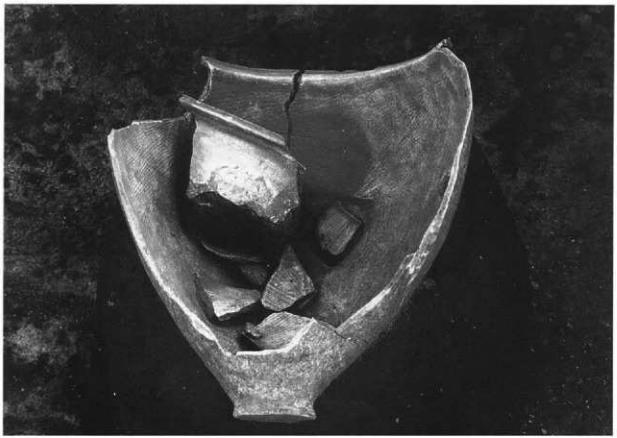
調査区南半（北から）

鉄塔地区全景（西から）

SX1・2（西から）



SX1北東周溝遺物（4・11・12・2）出土状況（北東から）



ＳＸ１南東周溝土器（16）出土状況（北西から）

ＳＸ１南東周溝土器（15・14）出土状況（北西から）

SX2北周溝土器出土状況（西から）

SX2北周溝土器出土状況（北から）

ＳＫ13土器（54・51・50）出土状況（南西から）

ＳＫ３土器（44・42・36・43）出土状況（北西から）

SK15土器（61）出土状況（南西から）

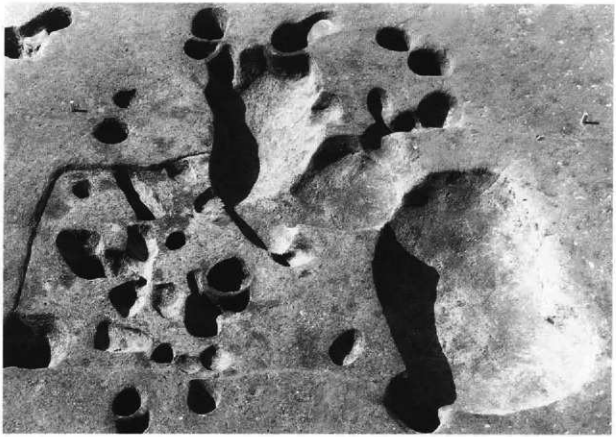
SK34土器出土状況（北東から）

ＳＫ35土器出土状況（西から）

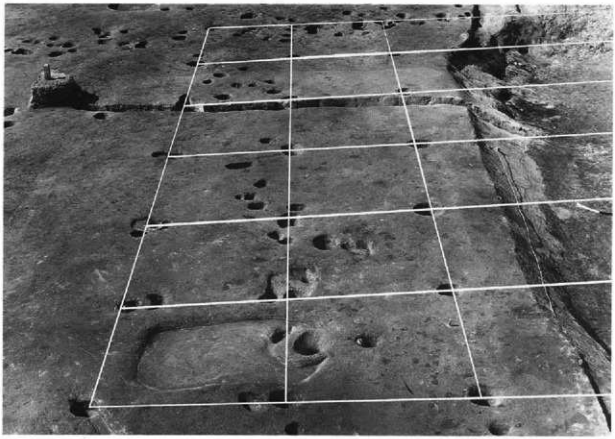
ＳＫ42土器出土状況（北西から）

SB6（西から）

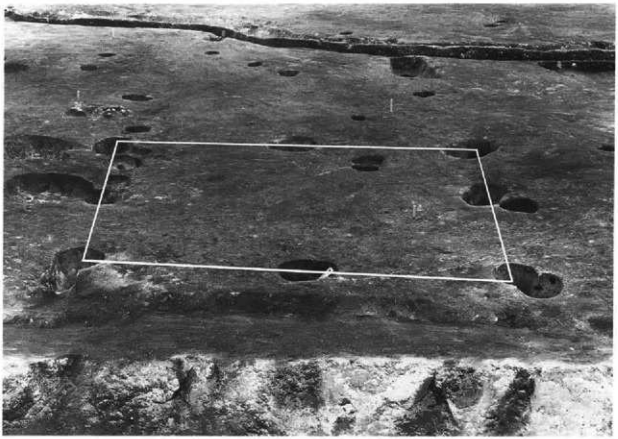
SB78（南から）



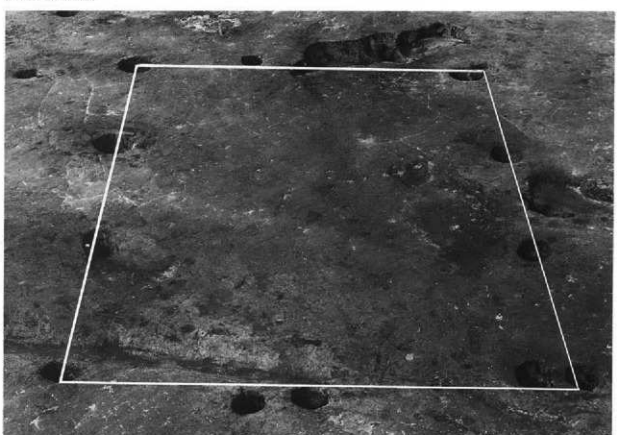
ＳＢ79（北から）



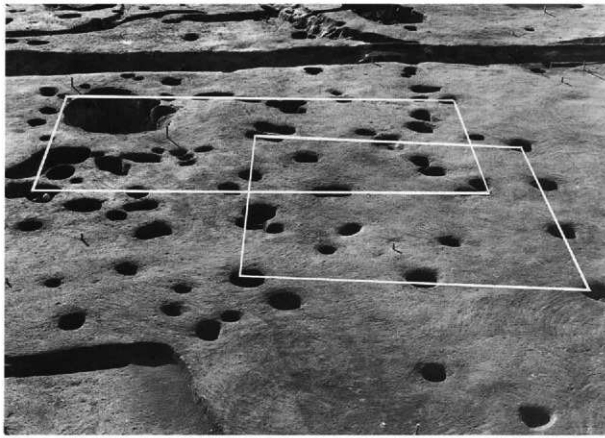
ＳＢ９・ＳＫ29（東から）



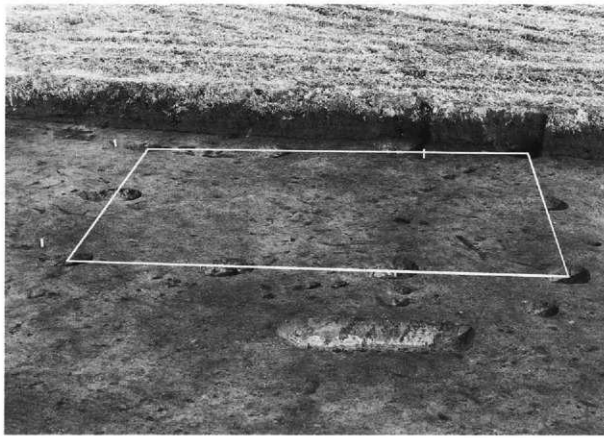
SB83（西から）



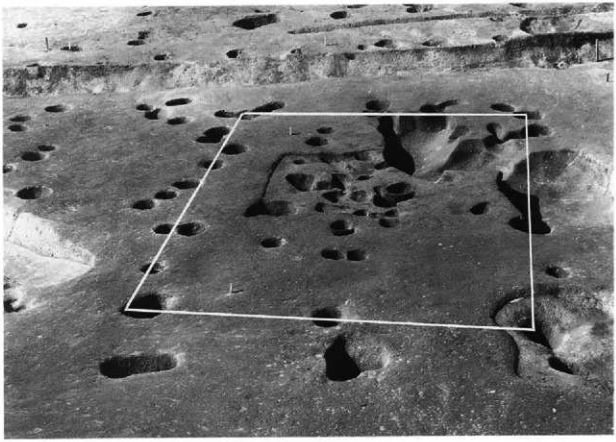
SB86（南から）



SB89・88（東から）

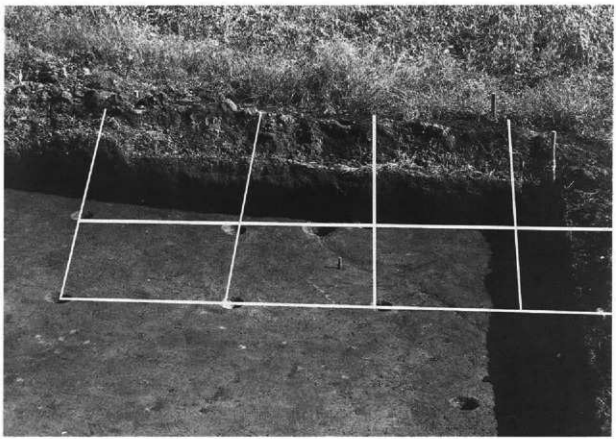


SB90（西から）

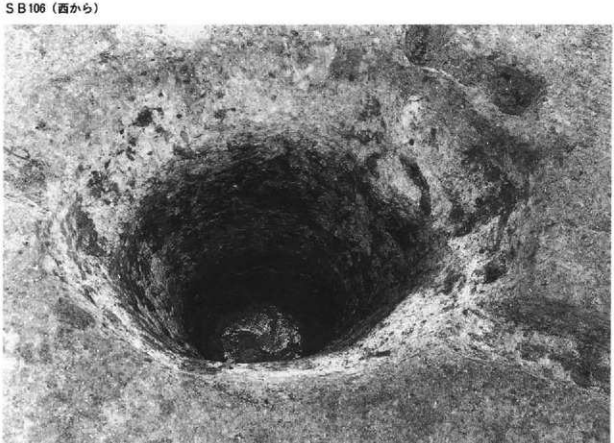


SB91（東から）

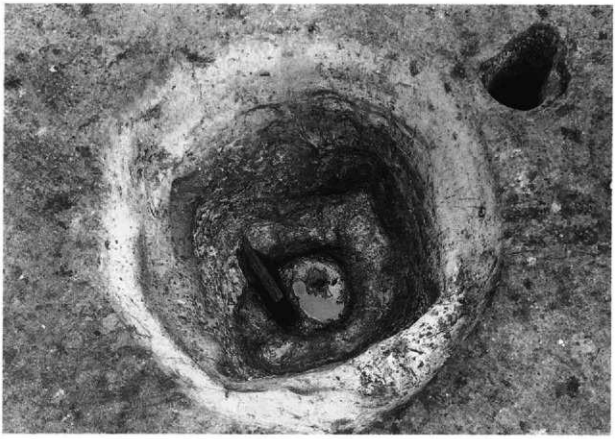
SB92・4（北から）



ＳＢ106（西から）



ＳＥ７（西から）



SE10（西から）

SE105遺物出土状況

SX5（南東から）

SX8（東から）

2

15

1

17

出土遺物（1は1：1，他は1：3）

出土遺物（1：3）

出土遺物（1：3）

27

36

出土遺物（1：3）

55

63

82

83

84

45

61

出土遺物（1：3）

出土遺物（106は１：１，他は１：３）

132

149

146

152

147

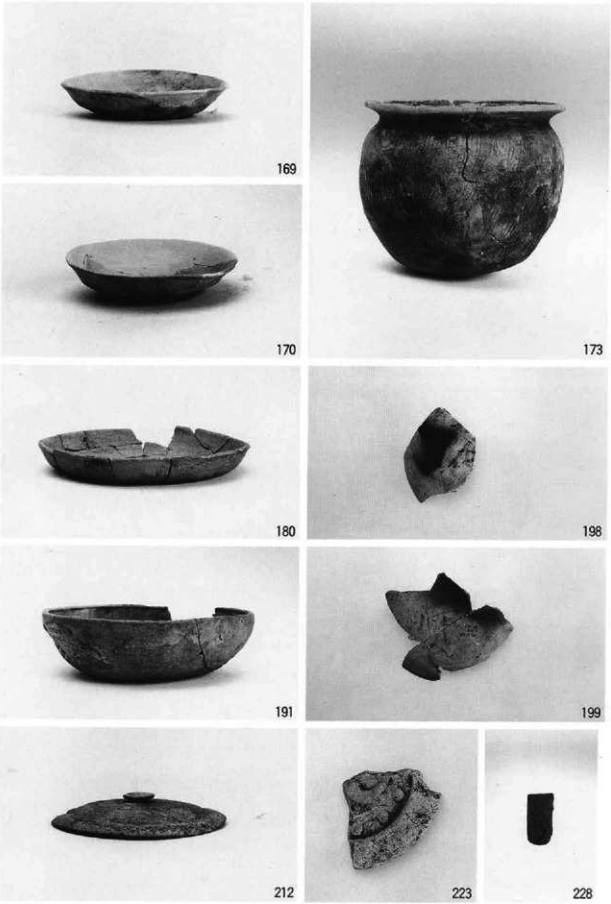
154

155

148

161

出土遺物（147・148は１：２，他は１：３）



出土遺物（228は１：２，他は１：３）

平成3(1991)年3月に刊行されたものをもとに
平成18(2006)年1月にデジタル化しました。

三重県埋蔵文化財調査報告８７－１６

近畿自動車道（久居～勢和）

埋蔵文化財発掘調査報告

－第３分冊　10－

1991（平成３）年３月

編　集　三重県教育委員会
発　行　三重県埋蔵文化財センター

印　刷　光出版印刷株式会社